

平成 26 年度

佐賀大学 学生募集要項

—推薦入試—
—帰国子女特別入試—



佐賀大学

☎ 0952-28-8178

ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/>

e-mail nyushi@mail.admin.saga-u.ac.jp

目 次

I	佐賀大学憲章	1
II	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	2
III	推薦入試	
1	実施する学部、学科・課程、選修、募集人員及び対象となる高等学校の科	31
	推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）	
	推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）医学部医学科	
1	出願資格	33
2	推薦人員	35
3	出願方法及び出願期間	36
4	出願に必要な書類等	37
5	入試方法	39
1	出願資格	47
2	推薦人員	49
3	出願方法及び出願期間	49
4	出願に必要な書類等	50
5	入試方法	51
2	試験日時、試験実施内容及び試験場	55
3	事前相談を要するみなさんへ	56
4	合格者の発表	56
5	入学手続	56
6	不合格者の取扱い	58
7	注意事項	58
8	受験者心得	58
9	推薦に際しての留意点	59
10	入学志願票等の記入上の注意及び記入例	61
11	請求により本人に開示される個人情報	64
12	入学後の選修及びコース	65
13	過去3ヶ年の志願者等状況	66
14	佐賀大学予約型奨学金（かささぎ奨学金）について	67
15	平成27年度以降の入学者選抜方法等の変更について〔予告〕	69
	●推薦書（各学部）	（様式推5）
	●活動歴等報告書（文化教育学部の学校教育課程教科教育選修及び人間環境課程健康福祉・スポーツ選修志願者のみ）	（様式推7）
	●佐賀県枠・長崎県枠志願理由書・確約書	（様式推8-1, 8-2）
IV	帰国子女特別入試	
1	実施する学部、学科、募集人員	70
2	出願資格	70
3	出願方法及び出願期間	71
4	出願に必要な書類等	71
5	入試方法	73
6	試験日時、学力検査等及び試験場	74
7	事前相談を要するみなさんへ	74
8	合格者の発表	75
9	入学手続	75
10	不合格者の取扱い	76
11	注意事項	76
12	受験者心得	77
13	入学志願票等の記入上の注意及び記入例	78
14	請求により本人に開示される個人情報	81
V	共通事項「佐賀大学配置図及び佐賀大学への交通案内」	82
VI	添付書類	
1	推薦入試（出願用書類在中封筒内に同封分）	
	●検定料振込依頼書	（様式推1-1）
	●検定料振込証明台紙	（様式推1-2）
	●入学志願票（推薦入試）	（様式推2-1, 2-2）
	●写真票（推薦入試）	（様式推3-1, 3-2）
	●受験票（推薦入試）	（様式推4-1, 4-2）
	●自己推薦書（医学部）	（様式推6）
	●推薦入試作文用紙	（様式推9）
	●推薦入試用住所届	（様式推10）
	●志願票等在中封筒	
	●受験票（推薦入試用）等在中封筒	
	●写真用シール	
2	帰国子女特別入試（出願用書類在中封筒内に同封分）	
	●検定料振込依頼書	（様式帰1-1）
	●検定料振込証明台紙	（様式帰1-2）
	●入学志願票（帰国子女特別入試）	（様式帰2）
	●写真票（帰国子女特別入試）	（様式帰3）
	●受験票（帰国子女特別入試）	（様式帰4）
	●帰国子女特別入試志願者身上記録書	（様式帰5）
	●帰国子女特別入試用住所届	（様式帰6）
	●志願票等在中封筒	
	●受験票（帰国子女特別入試用）等在中封筒	
	●写真用シール	

試験実施日程等

－推薦入試Ⅰ－

－推薦入試Ⅱ－

－帰国子女特別入試－

推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）

学部（学科）	文化教育学部 経済学部 理工学部 農学部	医学部（看護学科）
願書受付期間	平成25年11月1日(金)～11月7日(木)	
試験日	平成25年11月29日(金)	平成25年11月30日(土)
合格者発表日	平成25年12月16日(月)	
入学手続期間	平成26年1月20日(月)～1月23日(木)	

推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

学部（学科）	医学部（医学科）	
願書受付期間	平成25年11月1日(金)～11月7日(木)	
試験日	平成25年11月30日(土)	
合格者発表日	平成26年2月12日(水)	
入学手続期間	平成26年2月14日(金)～2月19日(水)	

帰国子女特別入試

学部（学科）	理工学部 農学部	医学部（医学科）
願書受付期間	平成25年11月1日(金)～11月7日(木)	
試験日	平成25年11月29日(金)	平成26年2月25日(火) ～2月26日(水)
合格者発表日	平成25年12月16日(月)	平成26年3月7日(金)
入学手続期間	平成26年1月20日(月) ～1月23日(木)	平成26年3月12日(水) ～3月15日(土)

I 佐賀大学憲章

平成18年3月15日 制定

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します。

魅力ある大学

目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます

創造と継承

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます

教育先導大学

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします

研究の推進

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します

社会貢献

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます

国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します

検証と改善

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします

Ⅱ 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

各学部の入学者受入れの方針

文化教育学部

【1】求める学生像

文化教育学部は、学校教育課程、国際文化課程、人間環境課程及び美術・工芸課程により構成し、各々の課程の持つ特質を融合させたカリキュラムを整え、特定の専門知識に偏らない「総合知」を有する人材を育成することを目的とします。各課程の目的と求める学生像は以下の通りです。

■学校教育課程

社会的、国際的に広い視野と教養を持ち、教科内容、教育方法等について幅広く学び、教育実習の充実・高度化を通して、学校教育現場の諸問題に的確に対応できる教員を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 小学校の全教科に関する学習と、専門分野（教育学、教育心理学、障害児教育、教科教育、理科、数学、音楽のいずれか）の学習に興味と意欲を持つ人
- ② 幅広い基礎的学力や技能を備え、学校教育の諸問題や各教科の教育について熱意を持って学ぶことにより、小学校の教員、さらには中学校・高等学校などの教員を目指す人

〔学校教育課程で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

文系、理系に偏らず、高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現することが必要です。なお、技能が重要視される分野では、基礎的な技量を修得しておくことが求められます。将来、教師として活躍するためには、初等教育をめぐる諸問題に対して幅広い視野と強い関心を持つことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など教育に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば積極的に挑戦することを期待します。

■国際文化課程

文系専門分野に関する幅広い学識を持ち、徹底した外国語教育を通して、豊かな語学力と幅広い国際的視野を備える人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 国際的な広い視野からものごとを考え、学び、それを将来自分や社会のため活かそうという志を持つ人
- ② 外国語を含む言語運用能力およびそれを活用したコミュニケーション能力の修得に意欲を持つ人
- ③ 日本やアジア、欧米の言語・文化・歴史・社会等について学び、海外の大学への留学、公務員・旅客業・情報通信業・金融保険業など国際的な視野を必要とする業種への就職、中学校・

高等学校の国語科・社会科・英語科の教員を志望する人

〔国際文化課程で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

国際文化課程が目標とする語学力と国際的視野を身につけるためには、入学前に、基本となる教科を広く履修しておく必要があります。まず、文献の読解、発表、討論、レポートの作成などのために十分な国語力が求められます。次に、社会科の科目を学ぶことにより、現代の社会とそれにつながる歴史に対する理解を深めておくことは、国際的視野を身につけていく上で役立ちます。このように国語や社会科の科目をよく勉強することは、異文化交流を行う上で必要な他者と自己の文化を理解することにもつながります。また、英語の学力は、入学後、英語で書かれた文献を読み、英語によるコミュニケーションを行うために必要であり、英語以外の外国語を修得するときにも助けとなります。ほかに、歴史・思想・文化などに関する幅広い読書を通して自分自身で考え、さらに友人などと意見交換を行うことは、自分で問題を発見、分析し、解決する力と高いコミュニケーション能力を養う上で有益です。なお、コミュニケーションには論理的な思考力も必要ですので、数学・理科など理系の教科の学習も役に立ちます。

■人間環境課程

心身の成長と特性、地域の生活と文化及び環境の理論と技術に関する幅広い学識を身に付け、より豊かな生活を実現するための主導的役割を果たすことができる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 幅広い教養と基礎学力を有し、自然環境、地域社会、人間の文化に強い関心を持っている人
- ② ①に示す領域に関する高度な知識と先見性、実践力を身につけていく意欲のある人

〔人間環境課程で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

人間環境課程は、生活、地域社会や自然環境との関わり、福祉、健康とスポーツなど、人間と環境に関係する諸問題を学問対象としています。そのため、高等学校で学ぶ様々な教科や科目の基本的事項を幅広く修得しておくことが必要です。具体的には、授業で学んだ内容および実習や演習等での実践記録や調査内容についてレポートを作成する場合には、文章の読解力と記述力を中心とする国語の能力が必要となります。また、専門書の読解や日本以外の事柄について調べる場合には、基礎的な英語力も不可欠です。さらに、多様な分野で構成される本課程にとって、高等学校で履修する社会や理科に関わる基本的知識は、物事を幅広く捉え、多様な観点から考察するために必要な知識となります。また分野によっては家庭科や保健体育に関わる基本的知識や技能を修得しておくことが望まれます。

■美術・工芸課程

美術・工芸分野の理論・実践について学び、あわせて当該分野の教育について考究することを通して、美術教育者若しくは造形作家として、又は企業等において活躍できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 日本画，西洋画，彫刻，デザイン，窯芸，木工工芸，染織工芸，金工工芸，美術理論・美術史及び美術教育の各分野に興味と意欲をもっている人
- ② 基礎的学力や技能を備え，制作・学習に意欲的に取り組み，表現や理論的な思考などの能力を自ら育てようとする熱意を持って学び，優れた教育者や専門家，企業人などを目指す人

〔美術・工芸課程で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

美術工芸を学ぶにあたって大きく分けて3つの事を意識して下さい。1つ目は「活力」です。美術工芸が果たして来た役割を学びつつ、これからの社会とどのようにつながることが出来るかを想像して下さい。主体的な自己が生まれ、同時に活力を生み出す事ができます。2つ目は「理知」です。身の回りの現実にかかる出来事に興味を持ち、気になる事に少し立ち止まりながら知識を深めて下さい。さまざまな分野の事が複雑に関係している世界のさまざまな兆候を見逃さない感性が生まれ、理知へと発展します。3つ目は「発信」です。自分の好きなものや気になることを誰かに積極的に伝えて下さい。それは活力と理知を伴って社会への発信へと変わります。これらの事を入学前から意識する事で、より有意義な大学生活が送れるはずで

【2】入学者選抜の基本方針

文化教育学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、個別学力検査においては、専門科目を理解するために必要な基礎学力または適性を有しているかを、各課程・選修が指定する評価方法（学力検査、実技検査）によって評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、個別学力検査においては、専門科目を理解するために必要な基礎学力または適性を有しているかを、各課程・選修が指定する評価方法（小論文、面接、実技検査）によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」と「AO入試」の2つの入試区分により、入学者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、小論文（美術・工芸課程以外）および口頭試問（国際文化課程、人間環境課程〔健康福祉・スポーツ選修〕以外）によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力または適性を有しているかを、小論文（美術・工芸課程以外）、口頭試問（国際文化課程、人間環境課程〔健康福祉・スポーツ選修〕以外）および実技検査（国際文化課程、人間環境課程〔生活・環境・技術選修〕以外）によって評価します。さらに、各課程・選修に対する明確な志望動機や入学後の学習意欲等を有しているかを、書類審査と面接試験によって評価します。

【AO入試】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、小論文（学校教育課程〔音楽選修〕のみ）、志願者評価書（人間環境課程〔健康福祉・スポーツ選修〕のみ）およびプレゼンテーション（人間環境課程〔健康福祉・スポーツ選修〕のみ）によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力および適性を有しているかを、口頭試問、自己推薦書、レッスン形式による実技とソルフェージュ（学校教育課程〔音楽選修〕のみ）、志願者評価書（人間環境課程〔健康福祉・スポーツ選修〕のみ）およびプレゼンテーション（人間環境課程〔健康福祉・スポーツ選修〕のみ）によって評価します。さらに、各課程・選修に対する明確な志望動機や入学後の学習意欲等を有しているかを、書類審査と面接試験によって評価します。

編入学試験

各課程・選修の専門分野において、さらに高度な専門教育・研究を希望する学生を対象に3年次編入学試験を行います。編入学試験では、「一般入試」と「推薦入試」の2つの区分により、入学者を選考します。

【一般入試】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力または適性を有しているかを、学力検査（外国語）（美術・工芸課程以外）、成績証明書、小論文（国際文化課程、人間環境課程〔生活・環境・技術選修〕のみ）、口頭試問（人間環境課程のみ）および実技検査（美術・工芸課程のみ）によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の学習意欲等を有しているかを、面接試験（人間環境課程、美術・工芸課程のみ）によって評価します。

【推薦入試】

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力または適性を有しているかを、推薦書と小論文によって評価します。また、各課程・選修に対する明確な志望動機や入学後の学習意欲等を有しているかを、書類審査と面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、日本留学試験、TOEFL の成績、日本語作文（学校教育課程〔音楽選修〕と美術・工芸課程以外）および面接試験によって、入学後の学習に必要な語学力について評価します。また、大学で学習するために必要な基礎学力（汎用的な能力および専門科目を理解できる基礎学力または適性を含む）を有しているかを、日本留学試験、書類審査（成績証明書等）、実技検査（学校教育課程〔音楽選修〕と美術・工芸課程のみ）によって評価します。さらに、各課程・選修に対する明確な志望動機や入学後の学習意欲等を有しているかを、面接試験によって評価します。

文化教育学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法	対象課程・選修
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目（または6教科7科目）の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程）	学校教育課程 国際文化課程 人間環境課程
			一般入試（後期日程）	学校教育課程 （理科選修，数学選修） 国際文化課程 人間環境課程
		大学入試センター試験において、3教科3科目の国語、外国語を中心とした基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）	美術・工芸課程
		大学入試センター試験において、5教科5科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（後期日程）	学校教育課程 （理科選修，数学選修以外）
		調査書によって、高等学校時代における学業成績，学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）	学校教育課程（教科教育選修） 国際文化課程 人間環境課程 美術・工芸課程
			特別入試（AO入試）	学校教育課程（音楽選修） 人間環境課程 （健康福祉・スポーツ選修）
		口頭試問によって、志望課程・選修で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	一般入試（後期日程）	学校教育課程 （理科選修，数学選修）
			特別入試（推薦入試Ⅰ）	学校教育課程（教科教育選修） 人間環境課程 （生活・環境・技術選修） 美術・工芸課程
			特別入試（AO入試）	学校教育課程（音楽選修） 人間環境課程 （健康福祉・スポーツ選修）
			3年次編入学試験（一般入試）	人間環境課程
		小論文によって、「問題理解力」，「文章構成力」，「論理性」，「表現力」，「知識」について評価します。	一般入試（後期日程）	学校教育課程 （教育学選修，教育心理学選修，障害児教育選修，教科教育選修） 国際文化課程 人間環境課程
			特別入試（推薦入試Ⅰ）	学校教育課程（教科教育選修） 国際文化課程 人間環境課程
			特別入試（AO入試）	学校教育課程（音楽選修）
			3年次編入学試験（推薦入試）	国際文化課程 人間環境課程
			3年次編入学試験（一般入試）	国際文化課程 人間環境課程 （生活・環境・技術選修）
		志願者評価書によって、第三者の評価を参考に、汎用的な学力を身につけているかを評価します。	特別入試（AO入試）	人間環境課程 （健康福祉・スポーツ選修）
		プレゼンテーションによって、自己表現力および自分の考えを相手に正しく伝える力を身につけているかを評価します。	特別入試（AO入試）	人間環境課程 （健康福祉・スポーツ選修）
		日本留学試験において、課程・選修が指定した科目について基礎的な学力を評価します。	私費外国人留学生入試	全課程
		日本語作文および面接試験において、基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試	学校教育課程（音楽選修以外） 国際文化課程 人間環境課程
	書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	3年次編入学試験（推薦入試）	国際文化課程 人間環境課程	
		3年次編入学試験（一般入試）	国際文化課程 人間環境課程 美術・工芸課程	
		私費外国人留学生入試	全課程	
	TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試	全課程	
専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性	大学入試センター試験において、5教科7科目（または6教科7科目）の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程）	学校教育課程 国際文化課程 人間環境課程	
		一般入試（後期日程）	学校教育課程 （理科選修，数学選修） 国際文化課程 人間環境課程	
	大学入試センター試験において、3教科3科目の国語、外国語を中心とした基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）	美術・工芸課程	

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法	対象課程・選修	
知識・理解・思考・判断力	専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性	大学入試センター試験において、5教科5科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（後期日程）	学校教育課程 (理科選修, 数学選修以外)	
		個別学力検査において、高等学校で履修する国語, 数学, 英語の中から1教科について、標準的な知識と理解, それに基づく論理的な思考力を記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）	学校教育課程 (数学選修以外) 人間環境課程	
		個別学力検査において、高等学校で履修する数学について、標準的な知識と理解, それに基づく論理的な思考力を記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）	学校教育課程 (数学選修のみ)	
		個別学力検査において、高等学校で履修する国語と英語について、基礎的な知識だけでなく、長文読解力, 論理的思考力および表現力等を有しているかを記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）	国際文化課程	
		小論文によって、「問題理解力」, 「文章構成力」, 「論理性」, 「表現力」, 「知識」について評価します。	一般入試（後期日程）	学校教育課程 (教育学選修, 教育心理学選修, 障害児教育選修, 教科教育選修) 国際文化課程 人間環境課程	
			特別入試（推薦入試 I）	学校教育課程(教科教育選修) 国際文化課程 人間環境課程	
			特別入試（AO 入試）	学校教育課程（音楽選修）	
			3年次編入学試験(一般入試)	国際文化課程 人間環境課程 (生活・環境・技術選修)	
		実技検査において、志望課程・選修で学ぶために必要な基礎的な技術および適性について評価します。	3年次編入学試験(推薦入試)	国際文化課程 人間環境課程	
			一般入試（前期日程）	美術・工芸課程	
			一般入試（後期日程）	学校教育課程（音楽選修） 美術・工芸課程	
			特別入試（推薦入試 I）	学校教育課程(教科教育選修) 人間環境課程 (健康福祉・スポーツ選修) 美術・工芸課程	
		口頭試問によって、志望課程・選修で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（AO 入試）	学校教育課程（音楽選修）	
			3年次編入学試験(一般入試)	美術・工芸課程	
			私費外国人留学生入試	学校教育課程（音楽選修） 美術・工芸課程	
			特別入試（AO 入試）	学校教育課程（音楽選修） 人間環境課程 (健康福祉・スポーツ選修)	
		志願者評価書によって、第三者の評価を参考に、汎用的な学力を身につけているかを評価します。	3年次編入学試験(一般入試)	人間環境課程	
			特別入試（AO 入試）	人間環境課程 (健康福祉・スポーツ選修)	
			プレゼンテーションによって、自己表現力および自分の考えを相手に正しく伝える力を身につけているかを評価します。	特別入試（AO 入試）	人間環境課程 (健康福祉・スポーツ選修)
			学力検査において、外国語の理解と論理的な思考力について記述式によって評価します。	3年次編入学試験(一般入試)	国際文化課程 人間環境課程
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	3年次編入学試験(一般入試)	国際文化課程 人間環境課程 美術・工芸課程	
			3年次編入学試験(推薦入試)	国際文化課程 人間環境課程	
			私費外国人留学生入試	全課程	
			調査書等によって、高等学校時代における課外活動や志望課程・選修での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試（推薦入試 I）	学校教育課程(教科教育選修) 国際文化課程 人間環境課程 美術・工芸課程
特別入試（AO 入試）	学校教育課程（音楽選修） 人間環境課程 (健康福祉・スポーツ選修)				
3年次編入学試験(推薦入試)	国際文化課程 人間環境課程				
3年次編入学試験(一般入試)	国際文化課程 人間環境課程 美術・工芸課程				
興味・関心・態度・意欲	志望課程・選修で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	調査書等によって、高等学校時代における課外活動や志望課程・選修での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試（推薦入試 I）	学校教育課程(教科教育選修) 国際文化課程 人間環境課程 美術・工芸課程	
			特別入試（AO 入試）	学校教育課程（音楽選修） 人間環境課程 (健康福祉・スポーツ選修)	
			3年次編入学試験(推薦入試)	国際文化課程 人間環境課程	
			3年次編入学試験(一般入試)	国際文化課程 人間環境課程 美術・工芸課程	

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法	対象課程・選修
興味・関心・態度・意欲	志望課程・選修で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	推薦書において、推薦の理由を評価の参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）	学校教育課程(教科教育選修) 国際文化課程 人間環境課程 美術・工芸課程
			3年次編入学試験(推薦入試)	国際文化課程 人間環境課程
		自己推薦書において、推薦の理由を評価の参考にします。	特別入試（AO入試）	学校教育課程（音楽選修） 人間環境課程 （健康福祉・スポーツ選修）
		本人自筆の作文において、志望動機を評価の参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）	人間環境課程
		面接試験において、志望課程・選修で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	一般入試（後期日程）	学校教育課程 （理科選修、数学選修）
			特別入試（推薦入試Ⅰ）	学校教育課程(教科教育選修) 国際文化課程 人間環境課程 美術・工芸課程
			特別入試（AO入試）	学校教育課程（音楽選修） 人間環境課程 （健康福祉・スポーツ選修）
			3年次編入学試験(一般入試)	人間環境課程 美術・工芸課程
			3年次編入学試験(推薦入試)	国際文化課程 人間環境課程
	私費外国人留学生入試	全課程		

経 済 学 部

【1】求める学生像

経済学部は、経済学・経営学・法律学を柱として社会科学上の知識と教養を授け、経済社会における問題を分析し解決できる人材を育成することを目的とします。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 社会や経済における課題を発見し解決する能力を身につけ、企業や自治体などでの活動を通じて社会に貢献したいと考える人
- ② 高度な専門知識を身につけ、経済・経営・法律の分野で専門職業人となることを目指す人
- ③ 社会の変化に対応するために生涯にわたって学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学習能力を大学で得たいと考える人

〔経済学部で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

1. 知識と理解

- (1) 社会で生起している問題を理解するためには幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって、高等学校の主要教科科目の教科書レベルの知識を習得していることが求められます。特に、経済学・経営学・法律学を学ぶためには文章を正確に読解することが必要であり、そのためには入学前に一定の国語力を身につけておく必要があります。
- (2) グローバル化の時代においては英語を中心とした外国語の習得が必要です。また、国際性が求められる時代には外国語だけでなく、国際経済や国際政治などを理解するために歴史や地理などの広い知識も必要です。
- (3) 専門高等学校から進学する場合には、普通科目の勉強だけでなく、商業科目の基本的な知識と技能を習得しておくことが求められます。

2. 意欲と関心

社会問題への関心と情報収集能力が必要です。経済や経営、法律に関連する様々な社会現象に関心に向け、関心のあるテーマについては図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

【2】入学者選抜の基本方針

経済学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての人を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から

入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解するために必要な基礎学力として、国際的な視野で情報を収集し理解するための英語力を有しているかを判断するために、個別試験によって英語の基礎学力を評価します。

【後期日程】

大学で学修するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、社会科学の専門知識を得るために必要な基礎学力として、文献や資料の読解力と論理的思考能力および表現力を有しているかを判断するために、個別試験の小論文によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」（「普通科又はこれに準ずると本学部が認める科推薦」と「商業系の科、情報系の科、総合学科推薦」の2区分）により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。本学部の選考では、大学で学修するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、調査書によって高等学校での学習達成度を評価するとともに、専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性を有しているかを判断するために小論文を課し、書類審査と口頭試問によって本学部に対する明確な志望動機や入学後の学修意欲を評価します。なお、商業系の科・情報系の科・総合学科の生徒を対象にした区分では、簿記検定などの資格取得といった経済学部の勉学に関連した学習実績も評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学修するために必要な基礎学力として、日本語試験と日本語による口頭試問を行い、日本留学試験の結果と合わせて、入学後の学修に必要な語学力を持っているかを判断します。それと同時に、日本留学試験、書類審査、口頭試問によって、汎用的な学力および専門科目を学ぶために必要な基礎学力を評価します。さらに、本学部に対する明確な志望動機や入学後の学修意欲を有しているかを評価するために、書類審査と口頭試問を行います。

経済学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、4教科5科目の主要教科についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ)
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ)
		日本留学試験において、文系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		面接試験において、基礎的な日本語能力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性	大学入試センター試験において、4教科5科目の主要教科についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		個別試験で、高校で履修する「英語」における、基礎的な英文の読解力および英語作文力を記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	一般入試（後期日程） 特別入試(推薦入試Ⅰ)
		推薦書によって、高校時代に取得した資格を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ) ※商業系の科、情報系の科、総合学科推薦のみ
		口頭試問によって、本学部で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ) 私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、文系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試
		興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲
推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試(推薦入試Ⅰ)		
志願者本人の自筆の作文によって、志望理由、入学後の意欲等を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ)		
面接試験において、本学部で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ) 私費外国人留学生入試		

医 学 部

【1】求める学生像

医学部は、教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良い医療人を育成し、もって医学・看護学の発展並びに地域包括医療の向上に寄与することを基本理念とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■医学科

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献したいと考える人
- ② 他者への思いやりを持ち、コミュニケーションを取ることができる人
- ③ 学習と医療の研鑽を努力・持続するための忍耐強さを持つ人
- ④ 医学を学ぶために必要な基礎的学力・能力を備えている人
- ⑤ 生涯を通して、医学・医療について勉学する意欲のある人

〔医学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

医学は、生命科学を中心に自然科学のあらゆる分野が密接に関連しているとともに、人間を対象とする人文・社会科学の要素が深く関わっています。そのため、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を充分理解し、それに基づく論理的な思考ができるようにしておく必要があります。さらに、大学の学習で用いる参考書等の理解、レポートの作成、グループ討論や発表に必要な国語力、英語力およびコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。また、医学への志を確かなものにするために、医学・医療をとりまく社会に目を向け、読書やボランティア活動、医療関連先輩との交流などの取組みを通じて、自らキャリアデザインを考える積極的な姿勢が望まれます。

■看護学科

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献したいと願う人
- ② 豊かな感性と表現力を身につけている人
- ③ 相手の立場に立って、柔軟に物事を考えられる人
- ④ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指そうとする人
- ⑤ 幅広い基礎学力と論理的な思考力を備えている人
- ⑥ 生涯を通して、看護学や医療について勉学する意欲のある人

〔看護学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

看護学は、健康な人から病をもつ人まで様々な健康レベルの人々を対象とした実践科学です。人間は身体的・精神的・社会的存在で、環境と相互作用しながら健康を維持しています。これらの健康のしくみには、自然・人文・社会科学的要素が深く関わっているため、看護学の学習のためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。看護実践の基礎となる、看護の知識と専門的技術の修得には、特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を理解し、論理的な思考ができるようにしておく必要があります。また、看護は人間関係を通して実施されるため、文章による意思の疎通に必要な国語力や自己・他者間の理解を共有するためのコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。大学での学習は、看護の生涯学習の基盤となるため、国内外の社会に目を向け、読書やボランティア活動などの自己啓発の取り組みを通じて、自ら考える積極的な姿勢が望まれます。

【2】 入学者選抜の基本方針

医学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力、明確な志望動機や入学後の意欲等、医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、個別試験において、学力検査(医学科のみ)、小論文(看護学科のみ)、面接試験および調査書によって評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、個別試験において、調査書、自己推薦書および面接試験によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質および経験を有し、そして本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」（看護学科のみ）、「推薦入試Ⅱ」（医学科のみ）、「佐賀県推薦入学」（医学科のみ）、「帰国子女」（医学科のみ）、「社会人」（看護学科のみ）の5つの入試区分により、入学希望者を選考します。なお、「推薦入試Ⅱ（佐賀県枠）」と「佐賀県推薦入学」については、将来、佐賀県内の医療活動に、また「推薦入試Ⅱ（長崎県枠）」については、将来、長崎県内の医療活動に貢献したいという強い意志を持つ者を対象とします。

【推薦入試Ⅰ】（看護学科のみ）

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、調査書と小論文によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【推薦入試Ⅱ】（医学科のみ）

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって高等学校までの学習到達度を評価すると同時に、小論文によって、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力について評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【佐賀県推薦入学】（医学科のみ）

出願要件を満たし、佐賀県から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって高等学校までの学習到達度を評価すると同時に、小論文によって、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力について評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【帰国子女】（医学科のみ）

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査と書類審査によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【社会人】（看護学科のみ）

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学

力を有しているかを判断するために、書類審査と小論文によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

編入学試験（看護学科のみ）

短期大学及び専修学校の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象に3年次編入学試験を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、総合問題と書類審査によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試（医学科のみ）

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、日本留学試験、TOEFLの成績および書類審査によって評価します。さらに、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

医学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	評価方法	入試方法	対象学科	
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
		大学入試センター試験において、5教科6科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）	看護学科
		個別試験において、高校で履修する数学、英語、物理、化学について、標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力について記述式によって評価します。	一般入試（前期日程） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試	医学科
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
			一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
			一般入試（前期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（社会人）	看護学科
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試	医学科
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試	医学科
		日本留学試験と面接試験において、基本的な日本語力を評価します。	私費外国人留学生入試	医学科
TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試	医学科		
学力検査において、英語、専門科目に関する標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力について記述式によって評価します。	3年次編入学試験	看護学科		
興味・関心・態度・意欲	医療従事者としての適性および明確な志望動機や入学後の意欲等	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
			一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
		自己推薦書の内容について評価します。	一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）	医学科
			一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
		推薦書において、推薦の理由を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
			特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
		面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試	医学科
			一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（社会人） 3年次編入学試験	看護学科

理 工 学 部

【1】求める学生像

理工学部は、幅広い教養と科学・技術の専門的な素養を持ち、社会の広い分野で活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■数理科学科

数理科学科では、数学及び数理科学の領域において、広く社会で活躍できる高度な専門的知識・能力を持つ教育者、技術者、研究者となる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 数学および数理科学の分野の専門知識を修得し、論理的思考力、問題解決能力を身につけることを目指す人
- ② 数学および数理科学の分野で、専門的知識を社会に活用できる教育者、技術者を目指す人

[数理科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

■物理科学科

物理科学科では、広範な自然現象を理解する試みを通して、現代の科学技術を支える学力と、柔軟性に富んだ豊かな発想力を培い、広い分野で活躍できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 理数系科目の学力に優れ、自然科学に対して強い興味を持つ人

[物理科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには、高等学校で履修する物理と数学の基本的事項の理解および計算能力だけでなく、それらの知識に基づく論理的な思考力が求められま

す。また、実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに、専門的な知識や考え方を修得するためには、海外の文献にも目を通すことが必要であり、高等学校の教科書レベルの英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

■知能情報システム学科

知能情報システム学科では、情報科学及び情報工学の学問領域における専門知識・能力及び広い視野を持ち、知識基盤社会を担う人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 全般的な基礎学力を備え、特に数学、理科の学力を備えた人
- ② IT に対する興味と基礎知識がある人
- ③ ソフトウェア開発や情報システムの構築に取り組む意欲のある人

[知能情報システム学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

知能情報システム学科では、IT の理論の専門基礎を重点的に教育します。そのため、高等学校で数学及び理科の基礎事項を理解し、教科書レベルの問題を解く能力を求めます。文書作成、口頭発表の能力を育成しますので、国語の学力が重要です。専門文献を読むため及び国際社会で活躍するための語学教育に必要な英語の学力も要求します。また、幅広い文化、自然、社会の素養を修得するために広範な基礎学力も必要です。本学科では、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力などを育成します。したがって、良識的に行動し、高い学習意欲を持ち、知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

■機能物質化学科

機能物質化学科では、化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 日頃から身の回りにある物質・材料がどのような化合物からできていて、その機能はどのような原理に基づいているのかを興味を持って調べ、自らの手で新しい機能物質を創り出すことに意欲を持つ人
- ② 化学はもちろん生物・物理・数学など理数系科目が得意で、国語・社会・英語などの基礎学力を身に付けた人

[機能物質化学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

化学は、物質の構造や機能の関係性を明らかにするために、様々な物質を詳細に調べ、新しい物質の合成や分解を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには、

高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の物理的性質や生物的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、物理および生物の基礎学力は、化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

■機械システム工学科

機械システム工学科では、機械工学及びその関連の領域において、専門的な基礎知識及びその応用力並びにもものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。

- ① 理数系の基礎学力とともに倫理観を持ち、「ものづくり」に興味のある人

〔機械システム工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

機械工学は、すべてのものづくりに欠かせない技術であり、それを修得するためには、高等学校で学ぶ数学と物理および化学の基本的事項を理解し、教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また、講義を理解して、レポートを作成したり、自分が調べたものを発表するためには、読解力や記述力を中心とする国語能力だけでなく、現代社会の仕組みや歴史、文化など高等学校の社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに、英文の読解や作成、外国人とのコミュニケーションなど様々な分野で将来的に活躍するためには、高等学校で学ぶ基礎的な英語力は欠かせないものです。そして、ものづくりを通じた社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

■電気電子工学科

電気電子工学科では、電気工学及び電子工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。

- ① エレクトロニクスや情報通信関連のハードウェアやソフトウェアなどの「もの創り」への関心を持ち、あるいは世界的視野に立ったエネルギーや環境問題などにも興味を持った意欲ある人
- ② 高校時代においては数学、物理、化学などの理数系科目の基礎学力をしっかり身につけた人

〔電気電子工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

電気電子工学科に入学した学生は、日本の誇る大企業や九州の有力企業をはじめとする社会の第一線で活躍できるよう、電気電子工学に関連した様々な理数系専門科目を学びます。技術文書を正確に書く練習や、技術英語の修得も行います。そして、それらを駆使して社会に役立つもの

を創り出す研究活動も行います。そのため、入学時点で、数学、物理、化学などの理数系科目の基礎学力をしっかり身につけていることが必要です。国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。高校等での学習においては、教科書の範囲で解ける標準的な問題を、確実に解けるようにすることを望みます。社会で活躍できることを目指して育成しますので、もの創りへの関心や、エネルギーや環境問題等への興味が必要であり、男女を問わず意欲ある人の入学を望みます。

■都市工学科

都市工学科では、都市工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。

- ① 私たちの暮らしを支える社会基盤や自然環境、建築デザインなどに興味のある人
- ② 専門教育に必要な基礎学力と勉学意欲を有している人
- ③ 自律的な学習を支える責任感、チャレンジ精神とやり遂げる強い意志を持つ人

[都市工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

都市における交通体系や水・エネルギー供給のライフライン、建築物等のさまざまな社会基盤・施設の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが、同時に自然環境や歴史、風土等との調和も必要です。都市工学科では、都市や地域に関する理解、形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので、様々な社会的事象および文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって、都市工学科の志願者には、高校で学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力、論理的思考を支える国語力、英語で書かれた文献の理解のための英語力、さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会的な基礎知識などが求められます。

【2】入学者選抜の基本方針

理工学部教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、個別試験によって数学と理科の基礎学力を評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、各学科の専門科目と特に関係の深い教科および科目について高い学力を有しているかを判断するために、個別試験によって各学科が指定する科目の学力を評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」と「帰国子女」の2つの入試区分により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、調査書、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【帰国子女】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

編入学試験

各学科の専門分野において、さらに高度な専門教育・研究を希望する他教育機関からの学生を対象に3年次編入学試験を行います。編入学試験では、「一般入試」、「推薦入試」および「外国人留学生特別入試」の3つの区分により、入学希望者を選考します。

【一般入試】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

【推薦入試】

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、推薦書、小論文および口頭試問によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【外国人留学生特別入試】

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、入学後の学習に必要な日本語の習得について判断するために、日本留学試験の成績を用いて評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力な学力として、日本留学試験、TOEFLの成績および面接試験によって入学後の学習に必要な語学力について評価すると同時に、日本留学試験、書類審査および口頭試問によって汎用的な学力を有しているかを評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

理工学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女）
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価する。	私費外国人留学生入試
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		個別試験において、高校で履修する数学、物理および化学に関する標準的な知識と理解、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		個別試験において、高校で履修する数学、物理および化学の中から1つの科目について、深い知識と理解および応用力、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（後期日程）
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）
		学力検査において、数学、英語、専門科目に関する標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力について記述式によって評価します。	3年次編入学試験（一般入試）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	3年次編入学試験（一般入試）
興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試

農 学 部

【1】求める学生像

農学部は、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■応用生物科学科

応用生物科学科では、生物の特性を理解し、生物の改良や活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 多様な動植物の生理生態的特性の解明、バイオテクノロジーを用いた有用生物資源の開発・利用、有用動植物を加害する病害虫の制御等についての理解と関心がある人
- ② 問題解決に向けて、粘り強く自己研鑽に努める熱意と実行力がある人
- ③ 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

〔応用生物科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

生物に対する興味があり、生物の機能また生物が生育する環境について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人、留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が必要です。

■生物環境科学科

生物環境科学科では、3つのコースにおいて次のような人材を育成します。生物環境保全学コースでは、地球上の環境や生態系を深く理解し、これらの保全、再生及び活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。資源循環生産学コースでは、生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び、環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成します。地域社会開発学コースでは、フィールドワークに基づく教育研究を通して、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 自然環境、社会環境及び生物生産環境の保全と修復に興味を持つ人
- ② 永続的な農業を可能にする新たな生物生産システム及び経済社会システムの創造に意欲があ

る人

- ③ 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

〔生物環境科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

人間を含む生物やそれを取り巻く環境及び人間社会に対する興味があり、これらを総合的に学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学の課題にはグローバルな問題が多くあり、それを解決する糸口を得るため、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が望まれます。

■生命機能科学科

生命機能科学科では、科学的思考力を備え、生命科学技術の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 生体における遺伝子の発現や物質代謝とそれらの調節機構を分子レベルで理解するライフサイエンス、食品の生体調節機能、栄養機能や安全性等に興味を持っている人
- ② 将来、本学科で学んだ知識や技術を社会で活かそうと考えている人

〔生命機能科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

生命現象に対する科学的興味があり、微生物から高等生物までの生命体が持つ機能について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が必要です。

【2】入学者選抜の基本方針

農学部教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、個別試験によって、「数学」と「英語」の基礎学力を評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を深く理解するために必要な数理的な思考力・表現力に関する高い能力を有しているかを判断するために、個別試験によって、「数学」の基礎学力を評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」と「帰国子女」の2つの入試区分により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査(調査書、推薦書、作文等)、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問と小論文によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【帰国子女】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査(成績証明書等)、小論文

および口頭試問によって評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問と小論文によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

編入学試験

短期大学及び専修学校の卒業者等で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者学生を対象に3年次編入学試験を行います。

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、書類審査（成績証明書等）、学力検査（英語）、口頭試問および面接試験等によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力として、日本留学試験、TOEFLの成績および面接試験によって入学後の学習に必要な語学力について評価すると同時に、日本留学試験、書類審査（成績証明書等）および口頭試問によって汎用的な学力を有しているかを評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

農学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女）
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		個別試験において、高校で履修する「数学」について、標準的な知識と理解、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力を記述式によって評価します。また、「英語」では、長文読解力、論理的思考力等を有しているかについて記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		個別試験において、高校で履修する数学について、深い知識と理解および応用力、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（後期日程）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）
		学力検査において、英語文章の読解力について評価します。	3年次編入学試験（一般入試）
興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）

Ⅲ 推薦入試

1 実施する学部、学科・課程、選修、募集人員及び対象となる高等学校の科

※ 「高等学校」とは、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設とします。

学 部	学科・課程、選修	募集人員		対象となる高等学校の科	
		推薦入試Ⅰ (大学入試センター試験を課さない)	推薦入試Ⅱ (大学入試センター試験を課す)		
文化教育学部 (33人)	学校教育課程教科教育選修	10(注1)	-	高等学校の全科	
	国際文化課程	6	-		
	人間環境 課程	生活・環境・ 技術選修	3	-	高等学校の全科(注3)
		健康福祉・ス ポーツ選修	1	-	高等学校の総合学科(注4)
	美術・工芸課程	9	-	高等学校の全科	
		4	-		
経済学部 (60人)	経済学科	10	-	高等学校の商業系の科(商業高等学校の全科を含みます)・情報系の科及び総合学科(注5)	
		10	-	高等学校の普通科又はこれに準ずると本学部が認める科	
	経営学科	20	-	高等学校の商業系の科(商業高等学校の全科を含みます)・情報系の科及び総合学科(注5)	
		10	-	高等学校の普通科又はこれに準ずると本学部が認める科	
経済法学科	10	-	高等学校の普通科又はこれに準ずると本学部が認める科		
医学部 (64人)	医学科	-	44(注2)	高等学校の全科	
	看護学科	20	-	高等学校の全科(うち、2人以内を専門系の科及び総合学科から募集します。)	
理工学部 (37人)	知能情報システム学科	2	-	高等学校の情報系の科及び総合学科(注6)	
	機能物質化学科	2	-	高等学校の工業系の科及び総合学科(注6)(注7)	
	機械システム工学科	10	-	高等学校の普通科・理数科及び総合学科(注8)	
	電気電子工学科	5	-	高等学校の機械系の科及び総合学科(注6)	
	都市工学科	4	-	高等学校の電気・電子・情報系の科及び総合学科(注6)	
		4	-	高等学校の土木・建築系の科及び総合学科(注6)	
	10	-	高等学校の普通科・理数科及び総合学科(注8)		
農学部 (30人)	応用生物科学科	3	-	高等学校の専門系の科及び総合学科(注9)	
		7	-	高等学校の全科(ただし、専門系の科を除きます。)(注10)	
	生物環境科学科	3	-	高等学校の専門系の科及び総合学科(注9)	
		12	-	高等学校の全科(ただし、専門系の科を除きます。)(注10)	
	生命機能科学科	1	-	高等学校の専門系の科及び総合学科(注9)	
4		-	高等学校の全科(ただし、専門系の科を除きます。)(注10)		
合 計		180	44		

- (注1) 学校教育課程教科教育選修では、国語教育(書写)から2人程度、音楽教育から2人程度、造形教育から2人程度、体育教育から2人程度、情報技術教育から2人程度募集します。
- (注2) 一般枠20人、佐賀県枠23人、長崎県枠1人とします。
- (注3) 地域・生活文化分野及び環境・技術分野で3人募集します。
- (注4) 地域・生活文化分野あるいは環境・技術分野で1人募集します。高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。
- (注5) 高等学校の商業系の科・情報系の科及び総合学科については、商業系の専門教育に関する科目(「産業社会と人間」及び情報処理に関する基礎科目を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。
- (注6) 高等学校の総合学科については、それぞれの学科に関係する専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。
- (注7) 工業系の科については全科を対象とします。
- (注8) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)の修得単位が20単位未満の者(見込みを含みます。)に限ります。
- (注9) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。
- (注10) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)の修得単位が20単位未満の者(見込みを含みます。)に限ります。

推 薦 入 試 I

(大学入試センター試験を課さない)

文化教育学部

経済学部

医学部

(看護学科)

理工学部

農学部

1 出 願 資 格

推薦入試の出願資格は、下記(1)～(3)のすべての条件を満たす者とします。

なお、以下に記載している「高等学校」とは、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設とします。

(1) 推 薦 要 件

学部, 学科・課程		推 薦 要 件	
文 化	学校教育課程 教科教育選修	次の①, ②のすべてに該当し, かつ, ③～⑦のいずれかに該当する者で, 高等学校長が責任をもって推薦できる者 ① 調査書の全体の評定平均値が3.5以上で, 各教科の評定平均値に2.0以下がない者 ② 将来, 小学校の教員になることを強く志望する者 ③ 書写に関心があり, 将来, 教育現場に就職した場合, 国語教育(書写)を中心に研究する意欲を持つ者 ④ 音楽教育に関して意欲・関心が高く, 音楽的能力を有する者 ⑤ 小学校における図画工作教育に関心が高く, 造形表現能力が優れた者 ⑥ 運動・スポーツに対して, 興味・関心が高く, 将来, 小学校教育現場に就職した場合, 体育教育を中心に研究する意欲を持つ者 ⑦ 情報技術教育に対して興味・関心が高く, 大学において継続して情報技術を向上できる者	
	国際文化課程	調査書の学習成績概評がA以上であり, 高等学校長が責任をもって推薦できる者	
教 育	人間 環境 課程	全科 推薦	学業成績, 人物ともに優れ, 地域・生活文化分野, 環境・技術分野に対して, 興味・関心を有し, 高等学校長が責任をもって推薦できる者 ただし, 総合学科推薦との重複出願は認めません。 〔9 推薦に際しての留意点 (1)文化教育学部人間環境課程(生活・環境・技術選修)への推薦に際しての留意点〕(59ページ)を参照してください。
		総合 学科 推薦	学業成績, 人物ともに優れ, 地域・生活文化分野あるいは環境・技術分野に対して, 興味・関心を有し, 高等学校長が責任をもって推薦できる者 〔9 推薦に際しての留意点 (1)文化教育学部人間環境課程(生活・環境・技術選修)への推薦に際しての留意点〕(59ページ)を参照してください。
	健康福祉・ス ポーツ選修	次の①, ②に該当し, 学業成績, 人物等に優れ, 高等学校長が責任をもって推薦できる者 ① スポーツ分野を希望する者で, 優れた競技実績・技能を有する者 ② 入学後, 当該種目の競技活動を継続できる者	
	美術・工芸課程	学業成績, 人物ともに特に優れ, 美術又は工芸分野における優れた経験・知識・技術・実績及び熱意があると評価されて, 高等学校長が責任をもって推薦できる者	
経 済 学 部		総情商 合報業 学系系 科の科 推の推 薦薦 及及び	高等学校の成績が最終学年次(最終学年次において外国に留学した者については, その前学年次)に上位10%以内の者で, 人物, 学力について優れ, 高等学校長が責任をもって推薦できる者 ただし, コース毎等のみの順位による推薦はできません。

学部, 学科・課程		推 薦 要 件
経 済 学 部	と普通科又はこれに準ずる と本学部が認める科を推薦する	社会科学にとりわけ関心があり,かつ,人物について優れ,全体の評定平均値が4.0以上の者で,高等学校長が責任をもって推薦できる者 ただし, 次のうちいずれかの要件を満たす者に限ります。 ① 成績優秀な者(外国語については評定平均値4.3以上とします。) ② 社会事象についての分析や, 社会的活動等において優れた実績があり, それを裏付ける資料のある者(ただし, この実績については証明する資料を添付してください。) ③ 個性的で積極性に富み, 高等学校長が, 大学生活においてその能力を十分に発揮できると評価し, 推薦に価すると思われる者
医 学 部	看護学科	次の①, ②のすべてに該当し, 高等学校長が責任をもって推薦できる者 ① 学習成績が優秀で調査書の学習成績概評がA段階に属し, 心身ともに健全である者(Ⓐに該当する者については, 調査書の「4. 学習成績概評」欄にⒶと標示し, 「9. 備考」欄にその理由を明示してください。) ② 将来, 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた看護職者あるいは看護学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者
理 工 学 部		学習成績, 人物ともに優れ, 科学技術に対する熱意と能力があると評価されて, 高等学校長が責任をもって推薦できる者 (「9 推薦に際しての留意点 (2)理工学部への推薦に際しての留意点」(59ページ)を参照してください。)
農 学 部		学習成績, 人物について優れ, 自然科学に対する熱意と能力があると評価されて, 高等学校長が責任をもって推薦できる者 ただし, 高等学校の専門系の科及び総合学科の対象者は, 学習成績概評が, Ⓐとして推薦できる者に限ります。これに該当する者の調査書の「4. 学習成績概評」欄にⒶと標示し, 「9. 備考」欄にその理由を明示してください。

※ 高等学校の専門系の科及び総合学科については, 31ページの(注4)～(注10)により, 修得単位数を確認ください。

(2) 高等学校を平成26年3月卒業見込みの者

ただし,

文化教育学部については,

人間環境課程の健康福祉・スポーツ選修においては, 既卒業(修了)者を含みます。

経済学部については,

平成25年度中に高等学校の卒業(修了)を認められた者を含みます。

医学部看護学科については,

平成25年度中に高等学校の卒業(修了)を認められた者を含みます。

(3) 合格した場合は, **確実に入学**できる者

2 推 薦 人 員

学 部	学科・課程, 選修	推 薦 人 員
文化教育学部	学校教育課程 教科教育選修	前記「1 出願資格」の要件を満たす者であれば, 推薦人員を限定しません。
	国際文化課程	各高等学校から推薦できる人員は, 全日制, 定時制及び通信制の各課程からそれぞれ2人以内とします。なお, 推薦順位は要しません。
	人間環境課程	前記「1 出願資格」の要件を満たす者であれば, 推薦人員を限定しません。
	美術・工芸課程	各高等学校から推薦できる人員は, 全日制, 定時制及び通信制の各課程からそれぞれ2人以内とします。なお, 推薦順位は要しません。
経済学部	経済学科	前記「1 出願資格」の要件を満たす者であれば, 推薦人員を限定しません。
	経営学科	
	経済法学科	
医学部	看護学科	各高等学校から推薦できる人員は, 2人以内とします。
理工学部	知能情報システム学科	前記「1 出願資格」の要件を満たす者であれば, 推薦人員を限定しません。
	機能物質化学科	
	機械システム工学科	
	電気電子工学科	
	都市工学科	
農学部	応用生物科学科	対象となる各高等学校の全日制, 定時制及び通信制の各課程から各学科に対して2人以内とします。
	生物環境科学科	
	生命機能科学科	専門系の科及び総合学科は, 対象となる各高等学校の全日制, 定時制及び通信制の各課程から1人とします。 専門系の科を除く全科は, 対象となる各高等学校の全日制, 定時制及び通信制の各課程から2人以内とします。

3 出願方法及び出願期間

- (1) 高等学校長は、提出書類を取りまとめ、次の提出先あて、平成25年11月1日(金)から11月7日(木)17時まで**に必着**するように提出してください。

郵送の場合は、「**速達書留**」とし、本学所定の封筒を使用してください。

持参する場合は、次の提出先に提出してください。

[提出先]

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

- (2) 国公立大学（国際教養大学及び新潟県立大学を除きます。）の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）へ出願することができるのは、**1つの大学・学部**であるので留意してください。

4 出願に必要な書類等

<p>(1)入学検定料 17,000円 (様式推1-1) (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>○本要項に添付の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。(次頁注意事項参照) ○文化教育学部(学校教育課程教科教育選修体育教育及び美術・工芸課程)及び医学部(看護学科)における第1次選考(「5 入試方法」参照)の不合格者に対しては、13,000円を返還します。 第1次選考結果を通知する際に「返還請求書」等を送付しますので、必要事項を記入の上、指定する期日までに手続を行ってください。 なお、第1次選考不合格者及び次頁注意事項の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。</p>
<p>(2)検定料振込証明台紙 (様式推1-2) (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C票 検定料振込証明書」を本要項添付の台紙に貼り付けてください。</p>
<p>(3)入学志願票 (様式推2-1) (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>本学所定の入学志願票に必要事項を自筆で記入してください。</p>
<p>(4)写真2枚(4cm×3cm) 写真票(様式推3-1) 受験票(様式推4-1) (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>上半身脱帽正面向きで3か月以内に撮影したものを写真票(様式推3-1)及び受験票(様式推4-1)の所定欄に貼り付けてください。</p>
<p>(5)調 査 書</p>	<p>所定の様式により出身高等学校長が作成し、厳封したもの (注:「学習成績概評」欄に㊸と標示した場合は、必ず「備考」欄にその理由を明示してください。)</p>
<p>(6)高等学校長の推薦書 (様式推5-1～5-6)</p>	<p>各学部所定の推薦書用紙により、出身高等学校長が作成したもの</p>
<p>(7)自己推薦書 (医学部看護学科志願者のみ) (様式推6)</p>	<p>本学所定の用紙により、志願者本人が作成したもの</p>
<p>(8)活動歴等報告書 (文化教育学部の学校教育課程教科教育選修及び人間環境課程健康福祉・スポーツ選修志願者のみ) (様式推7)</p>	<p>本学所定の用紙により出身高等学校長が詳細に記入し作成したもの 学校教育課程教科教育選修(体育教育)及び人間環境課程健康福祉・スポーツ選修を志願する者は、競技者としての実績・成果をみますので、上位3大会までの本人の大会出場、成績、記録を証する資料(新聞、大会記録書、エントリー表、トーナメント表等の写し、競技等の写真等)を、学校教育課程教科教育選修(国語教育(書写)、音楽教育、造形教育)を志願する者は、表彰等を証する資料を、学校教育課程教科教育選修(情報技術教育)を志願する者は、取得した資格、合格した検定試験、コンクール等における記録、表彰等を証する資料をそれぞれA4判又はA3判に統一して添付してください。</p>
<p>(9)本人自筆の作文 (文化教育学部の人間環境課程、経済学部及び農学部志願者のみ) (様式推9) (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>それぞれの学科・課程を志願する理由、入学後特にしたいことなどについて、志願者本人が自筆で作成したもの 作文用紙は、本学所定の用紙を使用し、800字程度とします。</p>
<p>(10)住 所 届 (様式推10) (出願用書類在中封筒内に同封)</p>	<p>本学所定の住所届に必要事項を自筆で記入してください。</p>
<p>(11)受験票送付用封筒1枚</p>	<p>受験票を送付しますので、本学所定の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記の上、390円切手を貼り付けてください。</p>
<p>(12)高等学校の学校要覧等 (医学部看護学科志願者のみ)</p>	<p>専門系の科又は総合学科からの推薦に限り、概要及びカリキュラムを記載した学校要覧等を提出してください。</p>

注 意 事 項

下記の場合は出願を受理しません。

- ① 検定料が振り込まれていない場合（「C票 検定料振込証明書」に出納印がない場合）
- ② 振り込み済の「C票 検定料振込証明書」が、検定料振込証明台紙に貼り付けられていない場合
※出願書類を受理した後は、振り込み済の**検定料は返還いたしません**。

次の場合は、**検定料の返還請求ができます**ので、必ず手続きしてください。

- ① 検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
- ② 検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
- ③ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

なお、返還請求の方法等については、学務部入試課（0952-28-8178）までお問い合わせください。

調査書の記入について

廃校・被災その他の事情により出身高等学校長の調査書が得られない場合は、卒業証明書、成績通信簿その他志願者が提出できる書類をもって代えることができます。また、出願者が被災等により上記書類も整えられない場合は、出身学校所管の教育委員会、知事又は出身学校長が作成したこれに関する証明書を提出してください。

東日本大震災で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1. 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるのは、次に該当する者です。

（ア）東日本大震災における被害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

（イ）居住地が福島第一原子力発電所事故により、警戒区域、計画的避難区域、帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された者

2. 申請方法

事前に学務部入試課（0952-28-8178）に連絡し、該当すると判断された者は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

3. 申請書類

（ア）「入学検定料免除申請」（本学ホームページからダウンロード）

<http://www.sao.saga-u.ac.jp/PDF/H26/menjo-appli.pdf>

（イ）「り災証明書」（上記1.（ア）の①に該当する者）

（ウ）「死亡又は行方不明を証明する書類」（上記1.（ア）の②に該当する者）

（エ）「被災証明書」（上記1.（イ）に該当する者）

5 入 試 方 法

(1) 入試方法

高等学校長からの推薦に基づき、提出された調査書及び小論文、面接、実技検査等の結果を総合して決定します。

なお、大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。

[試験内容]

学部, 学科・課程, 選修		大学入試センター試験	小論文	面接	実技検査	備考	
文化教育学部	学校教育課程教科教育選修	×	○	○	○	面接は口頭試問を含みます。	
	国際文化課程	×	○	○	×		
	人間環境課程	生活・環境・技術選修	×	○	○	×	面接は口頭試問を含みます。
		健康福祉・スポーツ選修	×	○	○	○	
	美術・工芸課程	×	×	○	○	面接は口頭試問を含みます。	
経済学部	×	○	○	×	面接は口頭試問を含みます。		
医学部	看護学科	×	○	○	×		
理工学部		×	○	○	×	面接は口頭試問を含みます。	
農学部		×	○	○	×	面接は口頭試問を含みます。	

(注) ○印は、当該試験等を課すことを示します。

(注) ×印は、当該試験等を課さないことを示します。

(2) 第1次選考について

文化教育学部（学校教育課程教科教育選修体育教育及び美術・工芸課程）は、入学志願者が募集人員の約10倍を、医学部（看護学科）は、入学志願者が募集人員の約5倍を上回り、試験を適切に行うことが困難と予想される場合には、書類（調査書、推薦書等（学校長推薦書））による第1次選考を行い、その合格者に対して小論文、面接等の試験を実施します。

第1次選考の実施の有無については、本学ホームページでお知らせします。

第1次選考の結果は、志願者全員に「速達郵便」で通知し、合格者には本学の受験票を同封します。

[配点]

学部・学科等		区分	書類審査 (調査書, 推薦書等)	小論文	面接	実技 検査	総合得点 (総合評価)	備考
文化 教育 学部	学校教育 課程	国語教育 (書写)	200	200	200 (注1)	100	700	
		音楽教育	200	200	200 (注1)	100	700	
		造形教育	400	200	100 (注1)	300	1000	
		体育教育	200	200	200 (注1)	100	700	
		情報技術教育	400	200	200 (注1)	200	1000	
	国際文化課程		100	200	100		400	
	人間 環境 課程	生活・環境・技術選修	200	100	100 (注1)		400	
		健康福祉・ スポーツ選修	200	100	200	200	700	
	美術・工芸課程		200		400 (注1)	400	1000	
	経済 学部	経済学科	商業系の科・ 情報系の科・ 総合学科推薦	40	100	2段階 評価 (合,否) (注1)		2段階 評価 (合,否)
経営学科								
経済学科		普通科又はこれに準ずると 本学部が認める科推薦	2段階 評価	100				
経営学科								
経済法学科								
医学部	看護学科	150	200	150		500		
理工 学部	知能情報システム学科	2段階 評価		3段階 評価 (A, B, C)	3段階 評価 (A, B, C) (注1)		総合評価 (良,可,不可)	
	機能物質化学科							
	機械システム工学科							
	電気電子工学科							
	都市工学科							
農 学部	応用生物科学科	100	200	200 (注1)		500		
	生物環境科学科	100	200	200 (注1)		500		
	生命機能科学科	100	200	200 (注1)		500		

(注1) 面接は、口頭試問を含みます。

(3) 採点・評価基準

学部, 学科・課程, 選修等		な対 る象 科と	実技検査等	内 容	
文 化 教 育 部	学校教育課程 教科教育選修	全科	小論文	出題されたテーマについて、記述された内容を、テーマの解釈力、全体的構成員力、論理的思考力、文章表現力、個性的な独自の視点に重点を置いてみます。	
			面接	専門領域に関する知識や理解、表現力や積極性、修学意欲等をみます。	
			実技検査	国語教育（書写）では、書写の基礎能力をみます。音楽教育では、弾き歌いによって音楽の基礎能力を評価します。造形教育では、造形に関する基礎的な表現力が身につけているかをみます。体育教育では、選択した4種目の基礎運動能力検査結果をデータに基づき評価します。情報技術教育では、基本的な情報表現・活用能力又はものづくり能力を評価します。	
			調査書・活動歴等報告書等	学業成績、就学状況、部活動、社会活動、各種検定試験合格の有無等をみます。	
	国際文化課程	全科	小論文	問題内容を理解しているか、論理的な思考力を身に付けているか、適切な表現及び的確な記述がなされているかをみます。	
			面接	勉学意欲、国際社会への問題意識等をみます。	
			調査書	学業成績等をみます。	
	人間環境課程	生活・環境・技術選修	全科	小論文	出題されたテーマに対して、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。
				面接	地域・生活文化分野及び環境・技術分野に必要な知識、自己の目標や意欲を問います。
				調査書	学業成績、部活動、社会活動をみます。
		総合学科	全科	小論文	出題されたテーマに対して、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。
				面接	志望分野に必要な基礎知識、自己の目標や意欲を問います。
				調査書	学業成績、部活動、社会活動をみます。
	健康福祉・スポーツ選修	全科	小論文	理解力、論理的思考力、着想力、表現力をみます。	
			面接	専門性、意欲関心、判断力、理解力、態度、学習力をみます。	
実技検査			基礎運動能力、体力、技能をみます。		
調査書・活動歴等報告書等			学業成績、部活動（競技歴等）、社会活動をみます。		
美術・工芸課程	全科	面接	美術・工芸に関する口頭試問を行い、基礎的知識や制作活動の経験の把握を行うとともに、美術や工芸に関する意欲をみます。学習の目標が明確で、それが美術・工芸課程の内容に合致する者に高い評価を与えます。		
		実技検査	各希望分野の造形力をみます。		
		調査書	特に美術・工芸分野に優れた実績を有する者に高い評価を与えます。なかでも、希望専攻分野における成績が特に優れているかをみます。また、出席状況、クラブ活動、日常生活から充実した高校生活を過ごしたと認められる者で、かつ、美術・工芸課程への入学希望理由が明確であるか等をみます。		

学部, 学科・課程, 選修等		なる対象と科	実技検査等	内 容
経 済 学 部		び情報系の科及 総合学科	小 論 文	資料を提示のうえ, それについての読解力, 着眼力, 思考力, 文章表現力等を基準として評価します。
			面 接	高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。
			調 査 書 等	学修状況, 資格取得状況, クラブ活動等をみます。
		部に普通科又はこれ が認めると本学	小 論 文	資料を提示のうえ, それについての読解力, 着眼力, 思考力, 文章表現力等を基準として評価します。
			面 接	高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。
			調 査 書 等	学修状況, クラブ活動等をみます。
医 学 部	看 護 学 科	全 科	小 論 文	資料を提示のうえ, 論述式の試験を行うことにより, 病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性, 及び種々の問題を科学的・論理的に思考し, それを解決しうる能力を評価します。
			面 接	医学部志望の動機, 学習意欲, 積極性, 生命や医療に対する倫理観, チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し, 将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。
			調 査 書 等	単に学業成績優秀というのみでなく, 心身ともに健全で規則的生活習慣を保ち, 学習意欲・積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書によって評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。 なお, 調査書等については面接にあたっても参考にします。
理 工 学 部		情報系・総合学科	小 論 文	出題されたテーマに対し, テーマの解釈, 構成, 論理の展開, 視点の独自性, 表現能力をみます。
			面 接	志望学科に必要な基礎知識, 自己の目標や志望学科に対する意欲等を問います。
			調 査 書	学業成績, クラブ活動や, 情報及び理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。
		系 の 科 機 械 系 ・ 電 気 ・ 電 子 ・ 土 木 ・ 建 築	小 論 文	出題されたテーマに対し, テーマの解釈, 構成, 論理の展開, 視点の独自性, 表現能力をみます。
			面 接	志望学科に必要な基礎知識, 自己の目標や志望学科に対する意欲等を問います。
			調 査 書	学業成績, クラブ活動や理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。
		総合学科 普通科・理数科	小 論 文	出題されたテーマに対し, テーマの解釈, 構成, 論理の展開, 視点の独自性, 表現能力をみます。
			面 接	志望学科に必要な基礎知識, 自己の目標や志望学科に対する意欲等を問います。
			調 査 書	学業成績, クラブ活動や理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。
農 学 部		び専門系の科及 総合学科	小 論 文	出題されたテーマについて, 考察力, 論理的思考力, 表現力及び記述力をみます。
			面 接	必要な基礎知識, 自己の目標や志望学科に対する意欲等について, 口頭試問します。
			調 査 書	学業成績, 就学状況, 部活動及び社会活動をみます。
		除く全科 専門系の科を	小 論 文	出題されたテーマについて, 考察力, 論理的思考力, 表現力及び記述力をみます。
			面 接	必要な基礎知識, 自己の目標や志望学科に対する意欲等について, 口頭試問します。
			調 査 書	学業成績, 就学状況, 部活動及び社会活動をみます。

(4) 合否判定基準

学部, 学科・課程, 選修等		対象となる科	内 容	
文化 教育 学部	学校教育課程 教科教育選修	全科	書類（調査書, 推薦書及び活動歴等報告書）, 小論文, 面接及び実技検査の各成績評価を総合して, 合格者を決定します。体育教育の入学志願者が募集人員の約10倍の人数を超える場合には, 書類（調査書, 推薦者及び活動歴等報告書）により, 第1次選考を行う場合があります。	
	国際文化課程	全科	書類（調査書及び推薦書）, 小論文及び面接の各成績評価を総合して, 合格者を決定します。	
	人間環境 課程	生活・環境・ 技術選修	全科	書類（調査書, 推薦書及び作文）, 小論文及び面接の各成績評価を総合して, 合格者を決定します。
		健康福祉・ スポーツ選修	総合学科	書類（調査書, 推薦書及び作文）, 小論文及び面接の各成績評価を総合して, 合格者を決定します。
	美術・工芸課程	全科	書類（調査書, 推薦書, 作文及び活動歴等報告書）, 小論文, 面接及び実技検査の各成績評価を総合して, 合格者を決定します。 なお, 入学志願者が募集人員の約10倍の人数を超える場合には, 書類（調査書及び推薦書）により, 第1次選考を行う場合があります。	
経 済 学 部		商業系の科・情報系の科及び総合学科	書類（調査書, 推薦書等）, 小論文及び面接の成績を総合して判定します。	
		普通科又はこれに準ずると本学部が認める科	書類（調査書, 推薦書等）, 小論文及び面接の成績を総合して判定します。	
医 学 部	看護学科	全科	小論文, 面接, 高等学校長の推薦書, 調査書等を総合して合格者を決定します。なお, 面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。入学志願者が募集人員の約5倍を上回り, 試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には, 書類（調査書, 推薦書等（学校長推薦書））による第1次選考を実施します。	
理 工 学 部		情報系・総合学科	書類（調査書, 推薦書等）, 小論文及び面接の成績を総合して判定します。	
		工業系・総合学科	書類（調査書, 推薦書等）, 小論文及び面接の成績を総合して判定します。	
		普通科・理数科・総合学科	書類（調査書, 推薦書等）, 小論文及び面接の成績を総合して判定します。	
農 学 部		専門系の科及び総合学科	書類選考（調査書, 作文等）, 小論文及び面接等の結果を資料として判定の上, 合格者を決定します。	
		専門系の科を除く全科	書類選考（調査書, 作文等）, 小論文及び面接等の結果を資料として判定の上, 合格者を決定します。	

(5) 文化教育学部実技検査について

課程， 選修		実 技 検 査 方 法 等
学校 教育 課程	国語教育（書写）	①実技検査内容 楷書，行書の表現 ②持参するもの 筆，墨液，下敷き，硯，文鎮等（半紙は不要）
	音楽教育	①実技検査内容 「おぼろ月夜」（文部省唱歌 小学校音楽科第6学年共通教材）のピアノによる弾き歌い（伴奏楽譜並びに調は指定しない）
	造形教育	①実技検査内容 水性絵具による静物画 ②持参するもの 水性絵具（透明水彩，不透明水彩，アクリル絵の具のいずれでも可）鉛筆，水彩用の筆，パレット（水彩用紙，画板，イーゼルは不要）
	体育教育	①実技検査内容 次の各種目から4種目を選択して行います。 A 50m走 D 背筋力 B ハンドボール投げ E 持久走(男子1,500m, 女子1,000m) C ランニングジャンプ F 反復横跳び ②留意事項 1) 受験者は，横25cm×15cmの大きさの白布2枚に受験番号を太さ1cmの黒色で明確に書き，それを背中と胸の部分に縫い付けた運動着を着用して受験してください。 2) 50m走ではスパイクシューズを使用しないでください。 3) 体育館用シューズとグラウンド用シューズを持参してください。 4) 個人が使用する用具は各自で持参してください。ただし，検査種目で用いるボール等は大学で準備します。 5) 雨天の際は，実技検査要領について一部変更することがあります。50m走は往復走を，持久走は踏台昇降運動を行います。その場合，終了時刻が遅れることがあります。
	情報技術教育	①実技検査内容 情報表現・活用のためのプレゼンテーション資料の作成
人間環境課程 健康福祉・スポーツ選修	①実技検査内容 次の各種目から2種目を選択して行います。 A 50m走 G 反復横跳び B ハンドボール投げ H サッカー C ランニングジャンプ I バレーボール D 背筋力 J バスケットボール E 握力 K 野球またはソフトボール F 持久走(男子1,500m, 女子1,000m) L 柔道 ②留意事項 学校教育課程教科教育選修体育教育の留意事項と同じです。	
美術・工芸課程	①実技検査内容 以下の科目の中から志願時に1つを申告して受験してください。 A 石膏デッサン(木炭) E 平面構成 B 静物デッサン(鉛筆) F 立体造形A(粘土…ろくろ又は手びねり [※]) C 油彩 G 立体造形B(粘土又は木材等による立体構成) D 彫塑 注：試験時に選択 ②持参するもの 下記の基本的な材料，用具は大学で準備します。ただし，下記以外の必要な材料，用具は持参してください。 A， B……用紙，イーゼル，カルトン C……キャンバス，イーゼル E……用紙，下書き用紙，バケツ D， F， G……全て大学で用意します。	

推 薦 入 試 Ⅱ

(大学入試センター試験を課す)

医 学 部
(医 学 科)

1 出 願 資 格

推薦入試の出願資格は、下記の(1), (2)のすべての条件を満たす者とします。

なお、以下に記載している「高等学校」とは、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設とします。

(1) 推 薦 要 件

学部, 学科・課程	区分	推 薦 要 件
医学部 医学科	一般枠	<p>高等学校を平成25年度中に卒業を認められた者又は平成26年3月卒業見込みの者で、次の各号のすべてに該当し、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属し、心身ともに健全である者（Aに該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄にAと標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明示してください。）</p> <p>② 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた医師あるいは医学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者</p>
	佐賀県枠	<p>高等学校を平成24年4月以降に卒業を認められた者又は平成26年3月卒業見込みの者で、次の各号のすべてに該当し、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>① 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属し、心身ともに健全である者（Aに該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄にAと標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明示してください。）</p> <p>② 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内の医療活動に貢献したいという強い意思を有する者</p> <p>③ 次のいずれかに該当する者</p> <p>1) 佐賀県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>2) 佐賀県外の高等学校を卒業又は卒業見込みの者のうち、佐賀県内の小学校、中学校のいずれかを卒業し、保護者※が佐賀県内に平成25年10月1日現在で3年以上在住している者（出願手続時に住民票あるいは戸籍の附票で確認します。）</p> <p>※保護者とは、子女に対して親権を行う者、親権を行う者のないときは、未成年後見人をいう。（本学部における保護者の定義（学校教育法から引用））</p> <p>④ 卒業後は、佐賀県内の基幹型臨床研修病院において、初期臨床研修（2年）を受けることを確約できる者</p>
	長崎県枠	<p>高等学校を平成24年4月以降に卒業を認められた者又は平成26年3月卒業見込みの者で、次の各号のすべてに該当し、高等学校長が責任を持って推薦できる者</p> <p>① 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属し、心身ともに健全である者（Aに該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄にAと標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明示してください。）</p> <p>② 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、長崎県内の地域医療に貢献したいと強い意思を有する者</p> <p>③ 次のいずれかに該当する者</p> <p>1) 長崎県内の小学校又は中学校を卒業した者</p> <p>2) 長崎県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>④ 入学後は「長崎県医学修学資金」の貸与を受け、大学卒業後は長崎県が指定する長崎県内の医療機関等で診療に従事することを確約できる者</p>

(2) 合格した場合は、**確実に入学**できる者

「佐賀県枠」について

「佐賀県枠」の募集人員には、佐賀県内で医療活動に従事し地域医療を担う人材を育成するための「佐賀県医師修学資金」が貸与される5人が含まれています。

「佐賀県枠」の志願者に、奨学金貸与希望の確認を行いますが、詳細は、受験票送付時に文書にて連絡します。

1. 「佐賀県医師修学資金」貸与を希望した入学者は、佐賀県に貸与申請を行うことを原則とします。
2. 上記修学資金の貸与は、卒業後、佐賀県が指定する基幹型臨床研修病院において2年間の初期臨床研修を行い、その後一定期間、県が指定する県内の医療機関において医療活動に従事することを返還免除の条件としているものです。

「佐賀県医師修学資金」については、佐賀県のホームページをご確認ください。

佐賀県ホームページ <http://www.pref.saga.lg.jp/>

「長崎県枠」について

「長崎県枠」を志願した入学者には、長崎県内で医療活動に従事し地域医療を担う人材を育成するための「長崎県医学修学資金」が貸与されます。

1. 「長崎県枠」を志願した入学者は、長崎県に貸与申請を行うことを原則とします。
2. 上記修学資金の貸与は、卒業後、長崎県が指定する基幹型臨床研修病院において2年間の初期臨床研修を行い、その後一定期間、県が指定する県内の医療機関において医療活動に従事することを返還免除の条件としているものです。

「長崎県医学修学資金」については、長崎県のホームページをご確認ください。

長崎県ホームページ <https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/iryo/isinoyousei/igakushugakusikin/>

2 推薦人員

学部	学科・課程, 専修	区分	推薦人員
医学部	医学科	一般枠	各高等学校から推薦できる人員は2人以内とします。
		佐賀県枠	前記「1 出願資格」の要件を満たす者であれば, 推薦人員を限定しません。
		長崎県枠	各高等学校から推薦できる人員は1人とします。

3 出願方法及び出願期間

- (1) **高等学校長**は, 提出書類を取りまとめ, 次の提出先あて, **平成25年11月1日(金)から11月7日(木)17時まで**に**必着**するように提出してください。
- 郵送の場合は, 「**速達書留**」とし, 本学所定の封筒を使用してください。
- 持参する場合は, 次の提出先に提出してください。

[提出先]

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

- (2) 国公立大学(国際教養大学及び新潟県立大学を除きます。)の推薦入試(大学入試センター試験を課す場合, 課さない場合を含めて)へ出願することができるのは, **1つの大学・学部**であるので留意してください。

4 出願に必要な書類等

(1)入学検定料 17,000円 (様式推1-1) (出願書類在中封筒内に同封)	○本要項に添付の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。(注意事項参照) ○第1次選考(「5 入試方法」参照)の不合格者に対しては、13,000円を返還します。 第1次選考結果を通知する際に「返還請求書」等を送付しますので、必要事項を記入の上、指定する期日までに手続を行ってください。 なお、第1次選考不合格者及び注意事項の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。
(2)検定料振込証明台紙 (様式推1-2) (出願書類在中封筒内に同封)	上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C票 検定料振込証明書」を本要項添付の台紙に貼り付けてください。
(3)入学志願票 (様式推2-2) (出願書類在中封筒内に同封)	本学所定の入学志願票に必要事項を自筆で記入してください。
(4)写真2枚(4cm×3cm) 写真票(様式推3-2) 受験票(様式推4-2) (出願書類在中封筒内に同封)	上半身脱帽正面向きで3か月以内に撮影したものを写真票(様式推3-2)及び受験票(様式推4-2)の所定欄に貼り付けてください。
(5)大学入試センター試験成績請求票	「平成26センター試験成績請求票 国公立推薦入試用」を大学側で貼付しますので、平成25年12月20日(金)までに学務部入試課宛て速達書留で送付してください。
(6)調査書	所定の様式により出身高等学校長が作成し、厳封したもの (注:「学習成績概評」欄に④と標示した場合は、必ず「備考」欄にその理由を明示してください。)
(7)高等学校長の推薦書 (様式推5-4)	医学部所定の推薦書用紙により、出身高等学校長が作成したもの
(8)自己推薦書 (様式推6) (出願書類在中封筒内に同封)	本学所定の用紙により、志願者本人が作成したもの
(9)佐賀県枠・長崎県枠 志願理由書・確約書 佐賀県枠(様式推8-1) 長崎県枠(様式推8-2)	本学所定の用紙により、志願者本人が作成したもの
(10)卒業証明書等 (対象者のみ)	佐賀県枠 佐賀県枠において、佐賀県外の高等学校を卒業した者及び卒業見込みの場合は、小学校、中学校いずれかの卒業証明書などを提出してください。 (推薦要件に指定されている県内の学校を卒業している証明となるもの:卒業証書の写しなど)
	長崎県枠 長崎県枠において、長崎県外の高等学校を卒業した者及び卒業見込みの場合は、小学校、中学校いずれかの卒業証明書などを提出してください。 (推薦要件に指定されている県内の学校を卒業している証明となるもの:卒業証書の写しなど)
(11)住民票あるいは戸籍の附票の写し (佐賀県枠志願者のうち対象者のみ)	佐賀県枠において、佐賀県外の高等学校を卒業した者及び卒業見込みの場合は、保護者の住民票あるいは戸籍の附票の写しを提出してください。(平成25年10月1日以降に発行されたものに限りません。)
(12)住所届 (様式推10) (出願書類在中封筒内に同封)	本学所定の住所届に必要事項を自筆で記入してください。
(13)受験票送付用封筒1枚	受験票を送付しますので、本学所定の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記の上、390円切手を貼り付けてください。

注 意 事 項

下記の場合は出願を受理しません。

- ① 検定料が振り込まれていない場合(「C票 検定料振込証明書」に出納印がない場合)
 - ② 振り込み済の「C票 検定料振込証明書」が、検定料振込証明台紙に貼り付けられていない場合
- ※出願書類を受理した後は、振り込み済の検定料は返還いたしません。

次の場合は、検定料の返還請求ができますので、必ず手続きしてください。

- ① 検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
- ② 検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
- ③ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

なお、返還請求の方法等については、学務部入試課(0952-28-8178)までお問い合わせください。

調査書の記入について

廃校・被災その他の事情により出身高等学校長の調査書が得られない場合は、卒業証明書、成績通信簿その他志願者が提出できる書類をもって代えることができます。また、出願者が被災等により上記書類も整えられない場合は、出身学校所管の教育委員会、知事又は出身学校長が作成したこれに関する証明書を提出してください。

東日本大震災で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1. 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるのは、次に該当する者です。

(ア) 東日本大震災における被害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

(イ) 居住地が福島第一原子力発電所事故により、警戒区域、計画的避難区域、帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域、に指定された者

2. 申請方法

事前に学務部入試課（0952-28-8178）に連絡し、該当すると判断された者は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

3. 申請書類

(ア) 「入学検定料免除申請」（本学ホームページからダウンロード）

<http://www.sao.saga-u.ac.jp/PDF/H26/menjo-appli.pdf>

(イ) 「り災証明書」（上記1. (ア) の①に該当する者）

(ウ) 「死亡又は行方不明を証明する書類」（上記1. (ア) の②に該当する者）

(エ) 「被災証明書」（上記1. (イ) に該当する者）

5 入 試 方 法

(1) 入試方法

高等学校長からの推薦に基づき、提出された調査書等及び小論文、面接、大学入試センター試験成績等の結果を総合して決定します。

[試験内容]

学部, 学科	大学入試センター試験	小論文	面接	実技検査
医学部医学科	○	○	○	×

(注) ○印は、当該試験等を課すことを示します。

(注) ×印は、当該試験等を課さないことを示します。

(2) 第1次選考について

入学志願者が、一般枠及び佐賀県枠は募集人員の約5倍、長崎県枠は約10倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類（調査書、推薦書等（学校長推薦書））による第1次選考を実施します。

第1次選考の実施の有無については、本学ホームページでお知らせします。

第1次選考の結果は、志願者全員に「速達郵便」で通知し、合格者には本学の受験票を同封します。

大学入試センター試験の成績は、平成26年度大学入試センター試験の成績を用いることとし、受験を要する教科・科目（下記参照）のうち1つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。

[配点]

区分 学部・学科	書類審査 (調査書, 推薦書等)	小論文	面接	大学入試 センター 試験	総合得点 (総合評価)
医学部医学科	380	120	120	630	1250

※大学入試センター試験の利用教科・科目等

利用教科	科目名等	配点	配点合計
国	国【必須】	140	630
地歴・ 公民	世B, 日B, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 (注1)	*70	
数	数I・数A【必須】 数II・数B, 工, 簿・会, 情報から1 (注2)	140	
理	物I【必須】 化I【必須】	140	
外	英【必須】(注3)	140	

【利用教科・科目名等】欄

(注1) 地理歴史及び公民の科目において、2科目受験した場合は、受験した科目のうち「第1解答科目」の得点を地理歴史及び公民の得点として採用します。

(注2) 「工業数理基礎」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者に限ります。

(注3) 英語については、リスニングも含まれます。なお、リスニング未受験の者については、失格とします。(大学入試センターにおいて審査の上、リスニングの免除を許可された者を除きます。)

【配点】の欄

*印を付してある教科は選択教科を表します。

なお、英語は筆記試験(200点満点)を112点に、リスニング(50点満点)を28点に圧縮し、合計140点とします。リスニングを免除された者については、筆記試験(200点満点)を140点とします。

(3) 採点・評価基準

学部, 学科		対象となる科	実技検査等	内 容
医 学 部	医学科	全科	小論文	資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。
			面接	医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。
			調査書等	単に学業成績優秀というのみでなく、心身ともに健全で規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に扱います。 なお、調査書等については面接にあたっては参考とします。

(4) 合否判定基準

学部, 学科		対象となる科	内 容
医 学 部	医 学 科	全科	大学入試センター試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。また、大学入試センター試験の成績が本学の基準を満たしていない場合は、不合格とすることがあります。

共 通 事 項

2 試験日時，試験実施内容及び試験場

試験日時 文化教育学部，経済学部，理工学部及び農学部

平成25年11月29日(金)

医学部

平成25年11月30日(土)

学部，学科・課程		実 施 内 容		試 験 場	
文化教育学部	学校教育課程 教科教育選修	9：30～11：00	小論文	文化教育学部 (本庄キャンパス)	
		12：00～13：30	実技検査		
		14：00～	面接(口頭試問を含みます。)(注1)		
	国際文化課程	9：30～11：00	小論文		
		12：00～	面接		
	人間環境課程	生活・環境・ 技術選修	9：30～11：00		小論文
			12：00～		面接(口頭試問を含みます。)
		健康福祉・ スポーツ選修	9：30～11：00		小論文
			12：00～13：30		面接(注2)
	美術・工芸課程	9：30～12：30	実技検査		
13：30～		面接(口頭試問を含みます。)			
経済学部	10：00～11：30	小論文	経済学部 (本庄キャンパス)		
	12：30～	面接(口頭試問を含みます。)			
医学部	9：30～11：00	小論文	医学部 (鍋島キャンパス)		
	12：30～	面接			
理工学部	10：00～11：30	小論文	理工学部 (本庄キャンパス)		
	12：30～	面接(口頭試問を含みます。)			
農学部	10：00～11：30	小論文	農学部 (本庄キャンパス)		
	12：30～	面接(口頭試問を含みます。)			

(注1) 文化教育学部の学校教育課程教科教育選修(体育教育)では，面接の後，実技検査を行います。なお，受験者数の増減により，「面接」及び「実技検査」の開始時間を変更する場合がありますので留意してください。

(注2) 文化教育学部の人間環境課程健康福祉・スポーツ選修受験者は，受験者数の増減により，「面接」及び「実技検査」の開始時間を変更する場合がありますので留意してください。

3 事前相談を要するみなさんへ

本学において、受験上及び修学上の配慮を必要とされる志願者（障がい等を有するなど）は、出願にあたって、次により相談してください。

(1) 相談の時期

平成25年10月4日(金)まで

なお、相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので、可能な限り早めに相談してください。

また、期限後に本学を志望することとなった場合及び不慮の事故等により障がい等を有することとなった場合は、その時点で速やかに相談してください。

(2) 相談の方法

電話、郵便等にて、下記まで連絡してください。詳細については、その際に説明いたします。

[相談及び連絡先]

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課
(電話) 0952-28-8178

4 合格者の発表

(1) 合格者の発表は、本学「学務部入試課（佐賀市本庄町1番地）」前に合格者の受験番号を掲示するほか、本学所定の合格通知書をもって通知します。

なお、推薦した高等学校長に対しては合否を通知します。

また、合格者発表日の14時30分頃からホームページ（<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>）でも確認できます。

(2) 日時等

文化教育学部、経済学部、医学部（看護学科）、理工学部及び農学部

平成25年12月16日(月) 14時

医学部（医学科）

平成26年2月12日(水) 14時

(3) 電話による合否に関する問い合わせには一切応じません。

5 入学手続

(1) 入学手続期間

入学手続書類は、平成26年1月20日(月)から1月23日(木)17時までに必着するように発送してください。なお、医学部医学科については平成26年2月14日(金)から2月19日(水)17時までに必着するように発送してください。

期間内に入学手続をしなかった者は、入学辞退者とします。

(2) 入学手続の内容

前記(1)の入学手続期間内において、次に掲げる関係書類の提出及び入学料の納入を完了してください。

- ① 入学手続関係書類
本学所定の誓約書及び学生カード（合格者に対し、合格通知書と同時に郵送します。）、
写真（2枚）
- ② 納入金
入学料：282,000円（入学手続時に納入してください。）
授業料：267,900円（前期・後期）〔年額535,800円〕
※この金額は、平成25年4月現在のものです。

(留意事項)

- ① 入学時又は在学中に納入金の改定が行われた場合には、改定後の入学料及び授業料を納入していただくことになります。
なお、合格通知書送付の際、納入方法を含め、改めてお知らせします。
- ② 授業料（前期分）は入学手続時に納入する必要はありません。納入期間は、平成26年4月3日(木)から5月30日(金)です。（入学後に付与される学籍番号が必要です。）
- ③ 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。
- ④ 入学手続完了者で、特別な事情により平成26年3月31日(月)までに授業料を納入し、なおかつ平成26年3月31日(月)までに入学を辞退し、受理された場合には、納入した者の申し出により、納入済の授業料相当額を返還します。
- ⑤ 入学料の免除及び徴収猶予ならびに授業料の免除については、合格者に送付する関係書類を熟読の上、学生生活課に申し出てください。

(3) 注意事項

- ① 推薦入試の合格者は、次の②により許可された者を除くほか、国公立大学（国際教養大学及び新潟県立大学を除きます。）の個別学力検査等を受験しても入学許可は得られません。
- ② 推薦入試の合格者は、本学へ入学しなければなりません。ただし、特別な事情により入学辞退の必要が生じた場合には、合格者を推薦した高等学校長から、**平成26年1月23日(木)**までに辞退の理由を付した「**推薦入試辞退理由書**」（様式任意）を**学務部入試課**に提出し、本学の許可を受けなければなりません。なお、**医学部医学科については平成26年2月19日(木)**までに辞退の理由を付した「**推薦入試辞退理由書**」（様式任意）を**学務部入試課**に提出し、本学の許可を受けなければなりません。（合格者に送付する入学手続等のご案内も併せて参照してください。）
- ③ 上記②により、本学から入学辞退を許可された者は、個別学力検査等を受験することができますが、本学の許可を得ることがないまま、国公立大学の個別学力検査等を受験しても合格者とはなりません。
また、入学手続をしなかった者も、国公立大学の個別学力検査等を受験しても合格者とはなりません。
- ④ 国公立大学の一般入試における合格決定業務を円滑に行うため、受験者氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限り、推薦入試の合格及び入学手続き等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されることをあらかじめお知らせします。

6 不合格者の取扱い

推薦入試の不合格者で、本学の一般入試（前期日程 平成26年2月25日・26日，後期日程 平成26年3月12日・13日）に出願する場合は、「佐賀大学学生募集要項（一般入試）」に従って、改めて入学検定料を添え、出願してください。なお、医学部医学科については、合格者発表前に出願することになりますので、注意してください。

この場合は、**大学入試センター試験の受験者に限りますので、注意してください。**

7 注意事項

- (1) 推薦入試に関する照会は、下記に問い合わせてください。

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課
(電話) 0952-28-8178

- (2) 受験者の宿泊斡旋は行いません。

宿泊を必要とする場合は、次のところに照会すると便利です。

なお、この他、宿泊斡旋を行うところもあります。

● JTB コンベンションサポートセンター

〒810-0072 福岡市中央区長浜1-1-35 新KBCビル6F 電話092-751-2102

営業時間は月～金曜日の9:30～17:30（土日祝日は休み）

※詳細は同封の「佐賀大学生協からの受験宿泊・交通のご案内」を参照ください。

● 日本旅行佐賀支店

〒840-0816 佐賀市駅南本町3-7 電話0952-24-2218

営業時間は月～金曜日の9:30～17:30（土日祝日は休み）

- (3) アパート・マンション等の紹介，教科書教材等の資料請求について

合格者へのアパート・マンション等の紹介は、佐賀大学生生活協同組合（以下、佐賀大学生協と略す）や周辺不動産業者が行っています。受験時に資料請求案内を配布しますが、早めの資料請求予約，問合せは以下までお願いします。教科書，教材等の案内も平成26年3月初旬に佐賀大学生協から送付致します。

佐賀大学生生活協同組合 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学キャンパス内

電話(代表)0952-25-4450 月曜～金曜10:00～17:00 <http://kyushu.seikyone.jp/scoop/>

8 受験者心得

- (1) 受験者は、次により集合してください。なお、集合場所は受験票送付の際に併せて通知します。

● 文化教育学部

平成25年11月29日(金)9時まで文化教育学部の指定した場所

● 経済学部，理工学部及び農学部

平成25年11月29日(金)9時30分までに志願学部の指定した場所

●医学部

平成25年11月30日(土)9時までに医学部の指定した場所

- (2) 試験室では受験番号と机上の番号が一致するように着席し、受験票を机上の右上に置いてください。机には、受験票、筆記用具、眼鏡及び時計（計時機能だけのもの。）以外のものは置かないでください。その他の荷物は監督者の指示に従い、机の下又は横に置いてください。
- (3) 携帯電話等の電子機器類を持参した場合は、試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切ってかばん等に入れておいてください。
- (4) 試験時間中、トイレを申し出たい者及び気分が悪くなった者等は、手を挙げて監督者の指示を受けてください。
- (5) 受験票を忘れたとき又は紛失したときは、直ちに**各学部受付場所**に申し出て指示を受けてください。
- (6) 弁当及び飲み物は、各自持参してください。
- (7) **受験できなくなった場合は、試験日の前日までに学務部入試課まで連絡してください。**
- (8) 受験票は、合格者発表後の入学手続の際に必要なので保管しておいてください。
- (9) 試験開始後30分以上遅刻した者は入室できません。また、試験途中での退室は認めません。
- (10) 面接では、受付入室から退室解散までの所要時間が多少長くなることもあるので、その心づもりでいてください。

9 推薦に際しての留意点

- (1) 文化教育学部人間環境課程（生活・環境・技術選修）への推薦に際しての留意点

文化教育学部人間環境課程の生活・環境・技術選修における推薦入試は、その対象となる高等学校の科が全科推薦と総合学科推薦の二つに分かれています。

全科推薦では、生活・環境・技術選修の地域・生活文化分野と環境・技術分野の分野を問わず選修全体で3人の募集となっています。総合学科の推薦の場合は地域・生活文化分野あるいは環境・技術分野で1人の募集となっており、出願時にどちらかの分野を選んで受験することになります。

推薦入試の場合、入学後の分野・選修替えが認められませんので、推薦入試出願の際には希望する分野の選択には十分注意をしてください。地域・生活文化分野と環境・技術分野のそれぞれの分野の内容や特徴については、大学案内及び学部案内をよく読み十分検討してください。

- (2) 理工学部への推薦に際しての留意点

① 推薦入試制度の特色と推薦の要件

本学部において実施する推薦入試制度の特色は、大学入試センター試験を免除して、高等学校から提出される書類並びに小論文及び面接（口頭試問を含みます。）によって合否を判定するところにあります。

本制度は、次のいずれかの項に該当する人物・成績ともに優れた生徒が推薦により入学できる制度です。

ア 情報系の科及び総合学科の優秀な生徒

大学での修学に意欲を燃やす優秀な生徒に対して2人の定員枠を確保しており、推薦入試の方法によって入学の道を開き、その優れた素質を伸ばすことを目的としています。

イ 工業系の科及び総合学科の優秀な生徒

大学での修学に意欲を燃やす優秀な生徒に対して各学科2～5人の定員枠を確保しており、推薦入試の方法によって入学の道を開き、その優れた素質を伸ばすことを目的としています。

ウ 普通科、理数科及び総合学科の優秀な生徒

大学での勉学意欲に燃えている生徒、科学的探究心の旺盛な生徒、積極性に富み、個性豊かな高校生が学力選抜試験に煩わされることなく伸び伸びと高校生活を送った上で本学に入学されることを最大の眼目としています。志望学科の分野に熱意があり、次に示す項目のいずれかに該当する者で、大学において優秀な成績を修め得る素質を有すると高等学校長が判断した生徒を推薦してください。

(ア) 学業成績が優秀であり、特に数学、理科に傑出した成績を有する者

(イ) 科学的探究心が旺盛で、自然現象の観察記録等に優れた実績を有する者

(ウ) 個性豊かで、積極性に富み、高等学校長が特に推薦に価すると判断する者

② 推薦方法

推薦に必要な書類は、次のとおりです。

ア 調査書

イ 推薦書（本学指定様式）

ウ 参考資料（推薦の要件①のウの(イ)又は(ウ)で推薦する場合は、**その実績を示す資料等を提出してください。**）

10 入学志願票等の記入上の注意及び記入例

- (1) 志願票の記入に当たっては、募集要項を熟読の上、下記の「記入例」に従い記入してください。
- (2) 学科・課程、選修のコード番号を記入する欄は「電算処理コード表 (63ページ)」を参照し、正確に記入してください。
- (3) すべての書類の記入に当たっては、ペン (黒) 又はボールペン (黒) を用い、文字及び数字 (算用数字) はていねいに記入してください。
- (4) ※印欄は、記入しないでください。

(記入例)

「氏名」の欄

フリガナ (カタカナ)	サカハ	マナブ																	
漢字氏名	佐	賀	学																

● 氏名の欄は、左づめで記入してください。

「性別」及び「生年月日」の欄

性別		生 年 月 日				
男	女	昭和	平成	年	月	日
①	2	S	H	07	08	23

- 性別及び生年月日欄は、該当するコード番号の数字を○で囲んでください。
- 生年月日欄は、昭和・平成の該当するコード (S又はH) を○で囲み、生年月日は、1ケタの場合は右づめとし、前1コマに「0」を記入してください。なお、平成元年は、01と記入してください。

「志望学部」及び「志望学科・課程、選修」の欄

(文化教育学部の例) (経済学部の例) (医学部看護学科の例) (理工学部の例) (農学部例)

志望学部	志望	志望	志望	志望	志望
文化教育学部	国際文化 (学科課程)	経済 (学科課程)	看護 (学科課程)	機械システムI (学科課程)	応用生物科 (学科課程)
①	07	01	02	05	01

(医学部医学科の例)

志望学部	志望
	医 学科
①	01

- 志望学部のコード番号の数字を○で囲んでください。
- 志望の学科・課程、選修名と、「電算処理コード表 (63ページ)」により、該当する学科・課程、選修のコード番号の数字を1コマ1ケタずつ、正確に記入してください。

「かささぎ奨学金希望」の欄

かささぎ奨学金 希望欄	
希望する	希望しない
①	2

- かささぎ奨学金 (67ページ参照) の希望の有無について該当する番号に○印を付してください。

「文化教育学部志望者のみ」の欄

(1) 志望分野	人間環境課程生活・環境・技術選修	(2) 実技検査	学校教育課程教科教育選修	(3) 実技選択	1	50m走
	地域・生活文化分野		体育教育		2	ハンドボール投げ
					3	背筋力
					4	反復横跳び

- (1)の志望分野は、人間環境課程生活・環境・技術選修志望者が「地域・生活文化分野」又は「環境・技術分野」のいずれかを記入してください。
- (2)の実技検査は、学校教育課程教科教育選修志望者が「国語教育(書写)」、「音楽教育」、「造形教育」、「体育教育」又は「情報技術教育」のいずれかを記入してください。
- (3)の実技選択は、学校教育課程教科教育選修(体育教育)、人間環境課程(健康福祉・スポーツ選修)又は美術・工芸課程志望者が記入してください。ただし、健康福祉・スポーツ選修志望者は2つ、美術・工芸課程志望者は1つ記入してください。

「出願資格」の欄

出身学校所在地及び出身学校名													出 願 資 格										
佐賀 都道 国立 (公立) 府県 私立 佐賀 高等学校													高 等 学 校					卒業見込み・卒業の別					
													課 程			学 科							卒 業 見 込 込 み
全 日 制			定 時 制		通 信 制		普 通 科		理 数 科	農 業 科	工 業 科	商 業 科	総 合 学 科	1 ～ 6 以 外 の 学 科	卒 業 見 込 込 み		卒 業 年						
4			1		2 3		A		①	2	3	①	2	3	4	5	6	7	①		2		
高等学校等コード																							

- 「出身学校所在地及び出身学校名」欄に所要事項を記入し、該当事項を○で囲んでください。
- 「高等学校等コード」欄に「平成26年度大学入学者選抜大学入試センター試験受験案内」の「高等学校等コード表」により、該当するコード番号を記入してください。
- 「高等学校」欄の該当する事項のコード番号の数字を○で囲んでください。ただし、「卒業見込み」の者は、卒業年は記入しないでください。

「現住所及び連絡先等」の欄

- 本学から出願書類等について連絡する場合がありますので、正確に書いてください。なお、出願後、この欄に変更があった場合には直ちに電話により連絡するとともに、ハガキ等書面でもお知らせください。

〔連絡先〕 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課
(電話) 0952-28-8178

「住所届」

- 合格通知書は、これに記載された現住所に送付しますので、正確に書いてください。なお、出願後、住所に変更があった場合には直ちに電話により連絡するとともに、ハガキ等書面でもお知らせください。

電算処理コード表

《学部コード》

学 部	コード
文化教育学部	1
経済学部	2
医学部	5
理工学部	3
農学部	4

《学科・課程, 選修コード》

学 部	学科・課程, 選修	コード
文化教育学部	学校教育課程 教科教育選修	03
	国際文化課程	07
	人間環境課程	08
	美術・工芸課程	09
経済学部	経済学科	01
	経営学科	02
	経済法学科	03
医学部	医 学 科	01
	看 護 学 科	02
理工学部	知能情報システム学科	03
	機能物質化学科	04
	機械システム工学科	05
	電気電子工学科	06
	都市工学科	07
農 学 部	応用生物科学科	01
	生物環境科学科	02
	生命機能科学科	03

11 請求により本人に開示される個人情報

開示種類	平成26年度入学試験成績（書留で郵送）及び調査書（閲覧のみ）
申請期間	平成26年5月1日(木)～平成26年5月30日(金)まで（必着）
受付時間	9：00～17：00（土曜、日曜、祝日を除きます）
申請者	受験者本人に限ります。
申請方法	下記方法により、本学所定の申請書に必要事項を記入の上、申請してください。 なお、電話及び代理人による申請は認めません。 1 直接来学（学務部入試課で受け付けます） 2 郵送（最初に申請書の請求をし、申請書を送付ください）
申請書の請求	申請書は入試関係 web (http://www.sao.saga-u.ac.jp/) から取得できます。 web から申請書を取得できない方は、本学あての封筒の表面に、「入試情報開示申請書請求」と朱書きし、返信用封筒（郵送先を明記し80円切手を貼付したもの）を同封の上、学務部入試課に請求してください。申請書の請求は、代理人でも可能です。
申請に際し必要なもの	1 本学受験票 ・紛失の際は、写真入りの公的身分証明書等を持参してください。その際も受験番号は明確にする必要があります。なお、受験票は、成績郵送の際等にお返しいたします。 2 返信用封筒（長形3号の封筒に500円切手を貼ったもの） ・調査書のみ開示請求については、不要です。 3 印鑑（申請書に押印）
開示内容	当該年度のみ開示します。 ○ 入学試験成績 （受験者本人へ書留で郵送） ・小論文、実技検査及び面接等を得点又は段階評価で開示 医学部は、合格者に総点を、不合格者に合格最低点との得点差をランク別に開示します。なお、第1次選考不合格者には開示していません。 ○ 調査書 （閲覧のみ） ・窓口で閲覧となります。（ただし「指導上参考となる諸事項」と「備考欄」は非開示）
開示手続期間	申請受付から発送まで、3週間程度かかりますので御了承ください。

（個人情報の取扱いについて）

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律の施行に伴い、入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、入学者選抜に係る業務（統計処理などの付随する業務を含む。）以外に、教育目的等（入学金・授業料免除、（入学金徴収猶予）及び奨学金等を含む。）に利用します。

※本学が取得した個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供する事はありません。

12 入学後の選修及びコース

学 部	学科・課程	入学後の所属	備 考
文化教育学部	国際文化課程	日本・アジア文化選修	入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。
		欧米文化選修	
理 工 学 部	機能物質化学科	物質化学コース	入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。
		機能材料化学コース	
	都市工学科	都市環境基盤コース	入学して1年半後にそれぞれのコースに分かれます。
		建築・都市デザインコース	
農 学 部	生物環境科学科	生物環境保全学コース	入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。
		資源循環生産学コース	
		地域社会開発学コース	

13 過去3ヶ年の志願者等状況

学部、学科、課程等	対象となる 高等学校の科	平成23年度					平成24年度					平成25年度					
		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
文化 教育 学部	学校教育課程 教科教育選修	全科	11	20	20	11	11	33	33	11	11	10	30	30	10	10	
	国際文化課程	全科	6	29	29	6	6	18	18	6	6	6	28	28	6	6	
	人間 環境 課程	生活・ 環境・ 技術選修	全科	2	2	2	2	2	5	5	2	2	3	8	8	3	3
		健康福祉・ スポーツ 選修	総合学科	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	3	3	1	1
	美術・工芸課程	全科	4	41	30	4	4	4	28	28	4	4	4	24	24	4	4
	小計		31	102	91	32	32	31	118	118	34	34	33	131	130	33	33
経 済 学 部	経済学科 [H24までは 経済システム課程]	商業系の科・情 報系の科及び総 合学科	30	7	7	4	4	30	12	12	8	8	10	16	16	12	12
	経営学科 [H24までは 経営・法律課程]		40	39	28	28	36		36	22	22	20	22	22	20	20	
	経済学科 [H24までは 経済システム課程]	普通科又はこれ に準ずると本学 部が認める科	30	36	36	15	15	30	30	30	15	15	10	27	27	10	10
	経営学科 [H24までは 経営・法律課程]		34	34	17	17	36		36	17	17	10	15	15	11	11	
	経済法学科 [H25から]		-	-	-	-	-		-	-	-	10	19	19	10	10	
小計		60	117	116	64	64	60	114	114	62	62	60	99	99	63	63	
医 学 部	医学科	一般枠	33	96	96	33	33	101	101	33	33	20	38	38	20	20	
		佐賀県枠										23	48	48	23	23	
	看護学科	全科(注)	23	55 (2)	55 (2)	23 (0)	23 (0)	23	65 (4)	65 (4)	23 (0)	23 (0)	20	72 (1)	72 (1)	21 (0)	21 (0)
小計		56	151	56	56	56	56	166	166	56	56	63	158	158	64	64	
理 工 学 部	知能情報システム学科	情報系の科・ 総合学科	2	4	4	3	3	2	10	10	4	4	2	6	6	4	4
	機能物質化学科	工業系の科・ 総合学科	2	3	3	1	1	2	4	4	2	2	2	2	2	2	2
		普通科・理数科・ 総合学科	10	23	23	11	11	10	18	18	11	11	10	28	28	10	10
	機械システム工学科	機械系の科・ 総合学科	5	7	7	5	5	5	7	7	5	5	5	8	8	5	5
	電気電子工学科	電気・電子・ 情報系の科・ 総合学科	4	10	10	4	4	4	8	8	4	4	4	7	7	4	4
	都市工学科	土木・建築系の 科・総合学科	4	7	7	7	7	4	7	7	5	5	4	8	7	4	4
		普通科・理数科・ 総合学科	10	41	41	12	12	10	28	28	14	14	10	34	34	10	10
小計		37	95	95	43	43	37	82	82	45	45	37	93	92	39	39	
農 学 部	応用生物科学科	専門系の科・ 総合学科	3	7	7	3	3	3	7	7	3	3	3	7	7	3	3
		専門系の科を除 く全科	7	26	26	7	7	7	28	28	7	7	7	17	17	7	7
	生物環境科学科	専門系の科・ 総合学科	3	7	7	3	3	3	6	6	3	3	3	5	5	3	3
		専門系の科を除 く全科	12	30	30	12	12	12	21	21	12	12	12	22	22	13	13
	生命機能科学科	専門系の科・ 総合学科	1	1	1	1	1	1	3	3	1	1	1	4	4	1	1
		専門系の科を除 く全科	4	19	19	5	5	4	22	22	4	4	4	19	19	4	4
小計		30	90	90	31	31	30	87	87	30	30	30	74	74	31	31	
合計		214	555	543	226	226	214	567	567	227	227	223	555	553	230	230	

※医学部医学科は平成25年度に一般枠、佐賀県枠に分けての募集としました。

※医学部看護学科の()は、専門系の科及び総合学科で内数

(注) 2人以内を、専門系の科及び総合学科から募集します。

14 佐賀大学予約型奨学金（かささぎ奨学金）について

本奨学金は、本学に強く入学を希望する学業優秀な者について、入学前の申請により入学試験合格後の奨学金受給を約束（予約型）するとともに、一定の条件の下に在学期間中も支援を継続することにより、愛校心に溢れた優れた人材を育成することを目的としたものです。

(1) 申請資格

次の条件の全てを満たす者

- ① 日本の高等学校若しくは中等教育学校を平成25年度に卒業見込みの者及び平成24年度中に卒業した者
- ② 推薦入試を志願し、平成26年4月に本学に入学する予定の者で、本学に強く入学を希望する者
- ③ 本学入学後に奨学金の受給を希望する者

(2) 奨学金額

年額30万円（返還の必要はありません。）

(3) 給付期間

4年間（医学部医学科は6年間の継続支給）

※各学年の終期に学業成績、修学状況等による継続判定があります。

(4) 採用予定者数

5名程度

(5) 申請方法等

推薦入試志願者については、推薦入試出願時に志願票のかささぎ奨学金希望欄の該当する番号に○印を付して申請してください。

(6) 採用候補者の選考・決定

申請資格を満たしている申請者を対象に、入試成績により選考し決定します。

選考結果は、佐賀大学ホームページに選考状況を掲載し採用候補者に対し1月下旬に本人宛に通知します。ただし、医学部にあっては2月中旬に通知します。

奨学生の内定を受けた方は、本学入学後に奨学生採用手続きをとることにより正式に採用が決定します。

(7) 奨学金授与式

大学入学後、奨学生採用者に別途お知らせします。

(8) その他

- ① 本奨学金の申請・選考は、入学試験の合否に全く影響しません。
- ② 本奨学金の申請に係る個人情報は、奨学金業務に限定し利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

[連絡先]

佐賀大学学務部学生生活課

(電話) 0952-28-8172 (FAX) 0952-28-8948

15 平成27年度以降の入学選抜方法等の変更について〔予告〕

佐賀大学では、平成27年度以降の入学選抜より、募集人員、選抜方法等を下記のとおり変更します。

理工学部における推薦入試（推薦入試Ⅱ）の実施について

理工学部では、従来より実施している推薦入試（推薦入試Ⅰ）に加え、平成27年度入試から、以下のとおり大学入試センター試験を課す推薦入試（推薦入試Ⅱ）を新たに実施します。

学部・学科名	募集人員	大学入試センター試験 の利用教科・科目名		高校で履修することが必要な 教科・科目名			その他の 出願要件	
		教科	科目名等	教科	科目名等			
					平成27年 3月卒業 見込みの者	平成26年 3月に卒業 した者		
理 工 学 部	知能情報システム学科	3人程度	国 地歴・ 公民 数	国【必須】 世B、日B、地理B、 倫・政経 } から1 数Ⅰ・数A【必須】	数	数Ⅲ	数Ⅲ、数C	・高等学校を平成27年3月卒業見込みの者及び平成26年3月に卒業した者 ・学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価されて、高等学校長が責任をもって推薦できる者 ・合格した場合は確実に入学できる者
	機能物質化学科	10人程度	理 外	数Ⅱ・数B、工、簿・会、情報から1 物理、化学、生物、地学から2 英、独、仏、中、韓から1	理 数	物理 数Ⅲ	物理Ⅱ 数Ⅲ、数C	
	機械システム工学科	10人程度	国 地歴・ 公民 数 理 外	国【必須】 世B、日B、地理B、 倫・政経 } から1 数Ⅰ・数A【必須】 数Ⅱ・数B、工、簿・会、情報から1 物理【必須】 化学、生物、地学から1 英、独、仏、中、韓から1	数	数Ⅲ	数Ⅲ、数C	
	電気電子工学科	4人程度	国 地歴・ 公民 数 理 外	国【必須】 世B、日B、地理B、 倫・政経 } から1 数Ⅰ・数A【必須】 数Ⅱ・数B、工、簿・会、情報から1 物理、化学、生物、地学から2 英、独、仏、中、韓から1	数	数Ⅲ	数Ⅲ、数C	

- ※ 推薦入試Ⅱの実施に伴う募集人員の変更は、確定次第佐賀大学ホームページで発表します。
- ※ 機能物質化学科については、従来の機能物質化学科において実施している推薦入試Ⅰの普通科、理数科及び総合学科推薦（10人）の募集を行いません。なお、工業系の科の推薦（2人）に関する変更の予定はありません。
- ※ その他の学科の推薦入試Ⅰについては変更の予定はありません。

帰国子女特別入試

IV 帰国子女特別入試

1 実施する学部，学科，募集人員

学 部	学 科	募 集 人 員
医 学 部	医 学 科	若 干 人
理 工 学 部	数 理 科 学 科	各 学 科 と も 若 干 人
	物 理 科 学 科	
	知能情報システム学科	
	機 能 物 質 化 学 科	
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	
	電 気 電 子 工 学 科	
農 学 部	都 市 工 学 科	各 学 科 と も 若 干 人
	応 用 生 物 科 学 科	
	生 物 環 境 科 学 科	
	生 命 機 能 科 学 科	

(注) 募集人員の若干人は、一般入試後期日程の募集人員に含まれます。

2 出 願 資 格

● 医学部

日本の国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、保護者とともに2年以上継続して外国に在留し、次のいずれかに該当する者とします。

ただし、平成24年3月31日以前に帰国（一時的な短期の帰国を除きます。）した者及び保護者が帰国した後、本人が帰国するまでの期間が2年以上経過した者は、出願を認めません。

- (1) 学校教育における12年の課程を平成24年4月1日から平成26年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、原則として、外国において最終学年を含め、2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者

ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。

- (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成24年又は平成25年に授与された者で、平成26年3月31日までに18歳に達する者
- (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成24年又は平成25年に授与された者で、平成26年3月31日までに18歳に達する者
- (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成24年又は平成25年に授与された者で、平成26年3月31日までに18歳に達する者

● 理工学部及び農学部

日本国籍を有する者及び日本国の永住権を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含みます。）を外国又は日本において、平成24年4月1日から平成26年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、卒業（修了）時点から起算して過去4年間の内、外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者
ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。
- (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成24年又は平成25年に授与された者で、平成26年3月31日までに18歳に達する者
- (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成24年又は平成25年に授与された者で、平成26年3月31日までに18歳に達する者
- (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成24年又は平成25年に授与された者で、平成26年3月31日までに18歳に達する者

3 出願方法及び出願期間

平成25年11月1日(金)から11月7日(木)17時までに**必着**するように提出してください。

郵送の場合は、「速達書留」とし、本学所定の封筒を使用してください。

[提出先]

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

4 出願に必要な書類等

(1) 入学検定料17,000円 (様式帰1-1) (出願用書類在中封筒内に同封)	本要項に添付の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。(次頁注意事項参照) なお、次頁注意事項の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。
(2) 検定料振込証明台紙 (様式帰1-2) (出願用書類在中封筒内に同封)	上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C票 検定料振込証明書」を本要項添付の台紙に貼り付けてください。
(3) 入学志願票 (様式帰2) (出願用書類在中封筒内に同封)	本学所定の入学志願票に必要事項を自筆で記入してください。
(4) 写真2枚(4cm×3cm) 写真票(様式帰3) 受験票(様式帰4) (出願用書類在中封筒内に同封)	上半身脱帽正面向きで3か月以内に撮影したものを写真票(様式帰3)及び受験票(様式帰4)の所定欄に貼り付けてください。
(5) 身上記録書 (様式帰5) (出願用書類在中封筒内に同封)	本学所定の身上記録書に必要事項を自筆で記入してください。(理工学部については、最終出身学校の所見の記録があるもの)
(6) 卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書	最終卒業(修了)学校の証明書 なお、医学部については、卒業(修了)学校の沿革、概要及びカリキュラムを記載した学校要覧等を、可能であれば提出してください。
(7) 在学期間証明書	外国において、2年以上継続して学校教育を受けたことを証するもの
(8) 成績証明書	・最終卒業(修了)学校の証明書 なお、日本の高等学校に在学したことがある場合は、当該高等学校長の作成した所定の調査書も併せて提出してください。 ・飛び級や繰り上げ卒業等の事実があれば記載してください。 ・科目名、成績評価等が符号又は略字等により表示されている場合は、その説明書を添付してください。

(9) IB 資格証書等	国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を取得した者は、その資格証書の写しと国際バカロレア最終試験6科目の成績証明書を提出してください。
(10) 一般的大学入学資格証	ドイツ連邦共和国において、一般的大学入学資格（アビトゥア資格）を取得した者は、その資格証明書の写しを提出してください。
(11) バカロレア資格証書等	フランス共和国において、バカロレア資格を取得した者は、その資格証書の写しとバカロレア資格試験成績証明書を提出してください。
(12) 国家試験等の統一試験成績評価証明書	各国の教育制度による、次の国家試験等の統一試験を受験している者は、成績証明書を必ず提出してください。 ・ Scholastic Aptitude Test (SAT) (アメリカ) ・ American College Testing-Examination (ACT) (アメリカ) ・ General Certificate of Education (GCE) (イギリス) ・ その他の国の成績評価証明書（なお、統一試験制度についての公式資料等を添付してください。）
(13) 「在留カード」または「外国人登録証」の写し（外国人登録原票記載事項証明書または、パスポートでも可）	○日本国籍を有しない者で、現に日本国内に在住しているときは、「在留カード」または市区町村長の発行する「外国人登録証」の表裏両面をコピーしたものを提出してください。（市区町村長の発行する「外国人登録原票記載事項証明書」の提出でも可） ○出願時に日本国内に在住していない者は、パスポートの写し（写真及び在留資格・期間の分かるページ）を提出してください。
(14) 帰国証明書等（医学部志願者のみ）	入国管理事務所（法務省）発行のものを提出してください。この場合、入国査証の写（顔写真及び氏名等が記載された頁、出国及び帰国のスタンプが押印された頁）でも構いません。 出願時に海外に在住する者は、日本国の在外公館発行の海外在留証明書を提出してください。
(15) 本人及び保護者の海外在留証明書等（様式自由）（医学部志願者のみ）	在外公館又は保護者の所属する機関の長による海外在留証明書（滞在期間、在留地を明記したもの）を提出してください。
(16) 住所届（様式第6）（出願書類在中封筒内に同封）	本学所定の住所届に必要事項を自筆で記入してください。
(17) 受験票送付用封筒1枚	受験票を送付しますので、本学所定の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記の上、 390円切手 を貼り付けてください。

注 意 事 項

下記の場合は出願を受理しません。

- ① 検定料が振り込まれていない場合（「C票 検定料振込証明書」に出納印がない場合）
 - ② 振り込み済の「C票 検定料振込証明書」が、検定料振込証明台紙に貼り付けられていない場合
- ※出願書類を受理した後は、振り込み済の検定料は返還いたしません。

次の場合は、検定料の返還請求ができますので、必ず手続きしてください。

- ① 検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
- ② 検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
- ③ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

なお、返還請求の方法等については、学務部入試課（0952-28-8178）までお問い合わせください。

東日本大震災で被災された佐賀大学志願者への入学検定料の免除について

1. 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるのは、次に該当する者です。

(ア) 東日本大震災における被害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

(イ) 居住地が福島第一原子力発電所事故により、警戒区域、計画的避難区域、帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された者

2. 申請方法

事前に学務部入試課（0952-28-8178）に連絡し、該当すると判断された者は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

3. 申請書類

(ア) 「入学検定料免除申請」（本学ホームページからダウンロード）

<http://www.sao.saga-u.ac.jp/PDF/H26/menjo-appli.pdf>

(イ) 「被災証明書」（上記1. (ア) の①に該当する者）

(ウ) 「死亡又は行方不明を証明する書類」（上記1. (ア) の②に該当する者）

(エ) 「被災証明書」（上記1. (イ) に該当する者）

5 入 試 方 法

(1) 入試方法

出願書類に基づき、本学が行う小論文等及び面接の結果を総合して決定します。

なお、医学部は大学入試センター試験を、理工学部及び農学部は大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。

(2) 採点評価基準

① 医学部

ア 学力検査の教科名・科目名等

数 学 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C（注1）

理 科 物Ⅰ・物Ⅱ，化Ⅰ・化Ⅱ（注2）（注3）

外国語 英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング・ライティング

（注1）数Bは、「数列」，「ベクトル」から，数Cは，「行列とその応用」，「式と曲線」から出題します。

（注2）物Ⅱは，「力と運動」，「電気と磁気」，「物質と原子（原子，分子の運動のみ）」から出題します。

（注3）化Ⅱの「生活と物質」，「生命と物質」について出題する場合は，併置出題とし，一方を選択解答とします。

イ 面接の採点・評価基準

医学部志望の動機，学習意欲，積極性，生命や医療に対する倫理観，チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し，将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。

② 理工学部及び農学部

ア 小論文の採点・評価基準

出題されたテーマについて，解釈力，論理的思考力，表現力及び記述力等をみます。

イ 面接の採点・評価基準

必要な基礎知識，自己の目標，志望学科に対する意欲を問います。

(3) 合否判定基準

① 医学部

学力検査，面接，提出書類を総合して最終的な合格者を決定します。

なお，面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。

② 理工学部及び農学部

書類（成績証明書等），小論文及び面接等の結果を資料として判定の上，合格者を決定します。

6 試験日時，学力検査等及び試験場

学部	実施期日	実施内容		試験場
医学部	平成26年2月25日(火)	9：30～11：10	英語	医学部 (鍋島キャンパス)
		12：30～14：30	数学	
		15：30～17：00	理科	
	平成26年2月26日(水)	9：10～	面接	
理工学部	平成25年11月29日(金)	10：00～11：30	小論文	理工学部 (本庄キャンパス)
		12：30～	面接(口頭試問を含みます。)	
農学部		10：00～11：30	小論文	農学部 (本庄キャンパス)
		12：30～	面接(口頭試問を含みます。)	

7 事前相談を要するみなさんへ

本学において、受験上及び修学上の配慮を必要とされる志願者（障がい等を有するなど）は、出願にあたって、次により相談してください。

(1) 相談の時期

平成25年10月4日(金)まで

なお、相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので、可能な限り早めに相談してください。

また、期限後に本学を志望することとなった場合及び不慮の事故等により障がい等を有することとなった場合は、その時点で速やかに相談してください。

(2) 相談の方法

電話、郵便等にて、下記まで連絡ください。詳細については、その際に説明いたします。

[相談及び連絡先]

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課
(電話) 0952-28-8178

8 合格者の発表

- (1) 合格者の発表は、本学「学務部入試課（佐賀市本庄町1番地）」前に合格者の受験番号を掲示するとともに、「日本国内の連絡先」あてに本学所定の合格通知書をもって通知します。
なお、合格者発表日の14時30分頃からホームページ（<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>）でも確認できます。
- (2) 日時等
医学部
平成26年3月7日(金) 14時
理工学部及び農学部
平成25年12月16日(月) 14時
- (3) 電話による合否に関する問い合わせには一切応じません。

9 入学手続

- (1) 入学手続期間
入学手続書類は、平成26年1月20日(月)から1月23日(木)17時までに必着するように発送してください。なお、医学部については平成26年3月12日(水)から3月15日(土)17時までに必着するように発送してください。
期間内に入学手続をしなかった者は、入学辞退者とします。
- (2) 入学手続の内容
前記(1)の入学手続期間内において、次に掲げる関係書類の提出及び入学料の納入を完了してください。
 - ① 入学手続関係書類
本学所定の誓約書及び学生カード（合格者に対し、合格通知書と同時に郵送します。）、写真（2枚）
 - ② 納入金
入学料：282,000円（入学手続時に納入してください。）
授業料：267,900円（前期・後期）[年額535,800円]
※この金額は、平成25年4月現在のものです。

（留意事項）

- ① 入学時又は在学中に納入金の改定が行われた場合には、改定後の入学料及び授業料を納入していただくことになります。
なお、合格通知書送付の際、納入方法を含め、改めてお知らせします。
- ② 授業料（前期分）は入学手続時に納入する必要はありません。納入期間は、平成26年4月3日(木)から5月30日(金)です。（入学後に付与される学籍番号が必要です。）
- ③ 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。
- ④ 入学手続完了者で、特別な事情により平成26年3月31日(月)までに授業料を納入し、なおかつ平成26年3月31日(月)までに入学を辞退し、受理された場合には、納入した者の申し出

により、納入済の授業料相当額を返還します。

- ⑤ 入学料の免除及び徴収猶予ならびに授業料の免除については、合格者に送付する関係書類を熟読の上、学生生活課に申し出てください。

10 不合格者の取扱い

帰国子女特別入試の不合格者で、本学の一般入試（前期日程 平成26年2月25日・26日、後期日程 平成26年3月12日・13日）に出願する場合は、「佐賀大学学生募集要項（一般入試）」に従って、改めて入学検定料を添え、出願してください。なお、**医学部医学科については、試験日より前に後期日程へ出願することになりますので、注意してください。**

この場合は、**大学入試センター試験の受験者に限りますので、注意してください。**

11 注 意 事 項

- (1) 現在外国に在住している者は、日本における連絡者との間に十分な連絡体制をとっておってください。
- (2) 帰国子女特別入試に関する照会は、下記に問い合わせてください。

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課
(電話) 0952-28-8178

- (3) 受験者の宿泊斡旋は行いません。

宿泊を必要とする場合は、次のところに照会すると便利です。

なお、この他、宿泊斡旋を行うところもあります。

- JTB コンベンションサポートセンター

〒810-0072 福岡市中央区長浜1-1-35 新KBCビル6F 電話092-751-2102

営業時間は月～金曜日の9:30～17:30（土日祝日は休み）

※詳細は同封の「佐賀大学生協からの受験宿泊・交通のご案内」を参照ください。

- 日本旅行佐賀支店

〒840-0816 佐賀市駅南本町3-7 電話0952-24-2218

営業時間は月～金曜日の9:30～17:30（土日祝日は休み）

- (4) アパート・マンション等の紹介、教科書教材等の資料請求について

合格者へのアパート・マンション等の紹介は、佐賀大学生生活協同組合（以下、佐賀大学生協と略す）や周辺不動産業者が行っています。受験時に資料請求案内を配布しますが、早めの資料請求予約、問合せは以下までお願いします。教科書、教材等の案内も平成26年3月初旬に佐賀大学生協から送付致します。

佐賀大学生生活協同組合 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学キャンパス内

電話(代表)0952-25-4450 月曜～金曜10:00～17:00 <http://kyushu.seikyounet.jp/scoop/>

12 受験者心得

- (1) 受験者は、次により集合してください。なお、集合場所は受験票送付の際に併せて通知します。
 - 理工学部・農学部
平成25年11月29日(金) 9時30分までに志願学部の指定した場所
 - 医学部
平成26年2月25日(火) 9時までに医学部の指定した場所
平成26年2月26日(水) 後日送付される通知文で指定した場所
- (2) 試験室では受験番号と机上の番号が一致するように着席し、受験票を机上の右上に置いてください。机には、受験票、筆記用具、眼鏡及び時計（計時機能だけのもの。）以外のものは置かないでください。その他の荷物は監督者の指示に従い、机の下又は横に置いてください。
- (3) 携帯電話等の電子機器類を持参した場合は、試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っかばん等に入れておいてください。
- (4) 試験時間中、トイレを申し出たい者及び気分の悪くなった者等は、手を挙げて監督者の指示を受けてください。
- (5) 受験票を忘れたとき又は紛失したときは、直ちに**各学部受付場所**に申し出て指示を受けてください。
- (6) 弁当及び飲み物は、各自持参してください。
- (7) **受験できなくなった場合は、試験日の前日までに学務部入試課まで連絡してください。**
- (8) 受験票は、合格者発表後の入学手続の際に必要なので保管しておいてください。
- (9) 試験開始後30分以上遅刻した者は入室できません。また、試験途中での退室は認めません。
- (10) 面接では、受付入室から退室解散までの所要時間が多少長くなることもあるので、その心づもりでいてください。

13 入学志願票等の記入上の注意及び記入例

- (1) 志願票の記入に当たっては、募集要項を熟読の上、下記の「記入例」に従い記入してください。
- (2) 学科のコード番号を記入する欄は「電算処理コード表 (80ページ)」を参照し、正確に記入してください。
- (3) すべての書類の記入に当たっては、ペン（黒）又はボールペン（黒）を用い、文字及び数字（算用数字）はていねいに記入してください。
- (4) ※印欄は、記入しないでください。

(記 入 例)

「氏名」の欄

フリガナ (カタカナ)	サ	カ	イ	マ	ナ	フ													
漢字氏名	佐	賀		学															

● 氏名の欄は、左づめで記入してください。

「性別」及び「生年月日」の欄

性別		生 年 月 日					
男	女	昭 和	平 成	年	月	日	
①	2	S	Ⓜ	0	7	0	8 2 3

- 性別及び生年月日欄は、該当するコード番号の数字を○で囲んでください。
- 生年月日欄は、昭和・平成の該当するコード（S又はH）を○で囲み、生年月日は、1ケタの場合は右づめとし、前1コマに「0」を記入してください。なお、平成元年は、01と記入してください。

「志望学部」及び「志望学科」の欄

志 望 学 部			(医学部の例)		(理工学部の例)		(農学部の例)	
医 学 部	理 工 学 部	農 学 部	志 望 学 科		志 望 学 科		志 望 学 科	
5	③	4	医 学科		機 械 シ ス テ ム I 学科		応 用 生 物 科 学科	
			0	/	0	5	0	/

- 志望学部のコード番号の数字を○で囲んでください。
- 志望の学科名と、「電算処理コード表 (80ページ)」により、該当する学科のコード番号の数字を1コマ1ケタずつ、正確に記入してください。

電算処理コード表

《学部コード》

学 部	コード
医 学 部	5
理 工 学 部	3
農 学 部	4

《学科コード》

学部	学 科	コード
医学部	医 学 科	01
理 工 学 部	数 理 科 学 科	01
	物 理 科 学 科	02
	知能情報システム学科	03
	機 能 物 質 化 学 科	04
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	05
	電 気 電 子 工 学 科	06
	都 市 工 学 科	07
農 学 部	応 用 生 物 科 学 科	01
	生 物 環 境 科 学 科	02
	生 命 機 能 科 学 科	03

14 請求により本人に開示される個人情報

開示種類	平成26年度入学試験成績（書留で郵送）
申請期間	平成26年5月1日(木)～平成26年5月30日(金)まで（必着）
受付時間	9：00～17：00（土曜、日曜、祝日を除きます。）
申請者	受験者本人に限ります。
申請方法	下記方法により、本学所定の申請書に必要事項を記入の上、申請してください。 なお、電話及び代理人による申請は認めません。 1 直接来学（学務部入試課で受け付けます） 2 郵送（最初に申請書の請求をし、申請書を送付ください）
申請書の請求	申請書は入試関係 web(http://www.sao.saga-u.ac.jp/)から取得できます。 上の方法で申請書を取得できない方は、本学あての封筒の表面に、「入試情報開示申請書請求」と朱書きし、返信用封筒（郵送先を明記し80円切手を貼付したもの。）を同封の上、学務部入試課に請求してください。申請書の請求は、代理人でも可能です。
申請に際し必要なもの	1 本学受験票 ・紛失の際は、写真入りの公的身分証明書等を持参してください。その際も受験番号は明確にする必要があります。なお、受験票は成績郵送の際等にお返しいたします。 2 返信用封筒（長形3号の封筒に500円切手を貼ったもの） 3 印鑑（申請書に押印）
開示内容	当該年度のみ開示します。 ○ 入学試験成績 （受験者本人へ書留で郵送） ・小論文及び面接等を段階評価で開示 医学部は、合格者に総点を、不合格者に合格最低点との得点差をランク別に開示します。
開示手続期間	申請受付から発送まで、3週間程度かかりますので御了承ください。

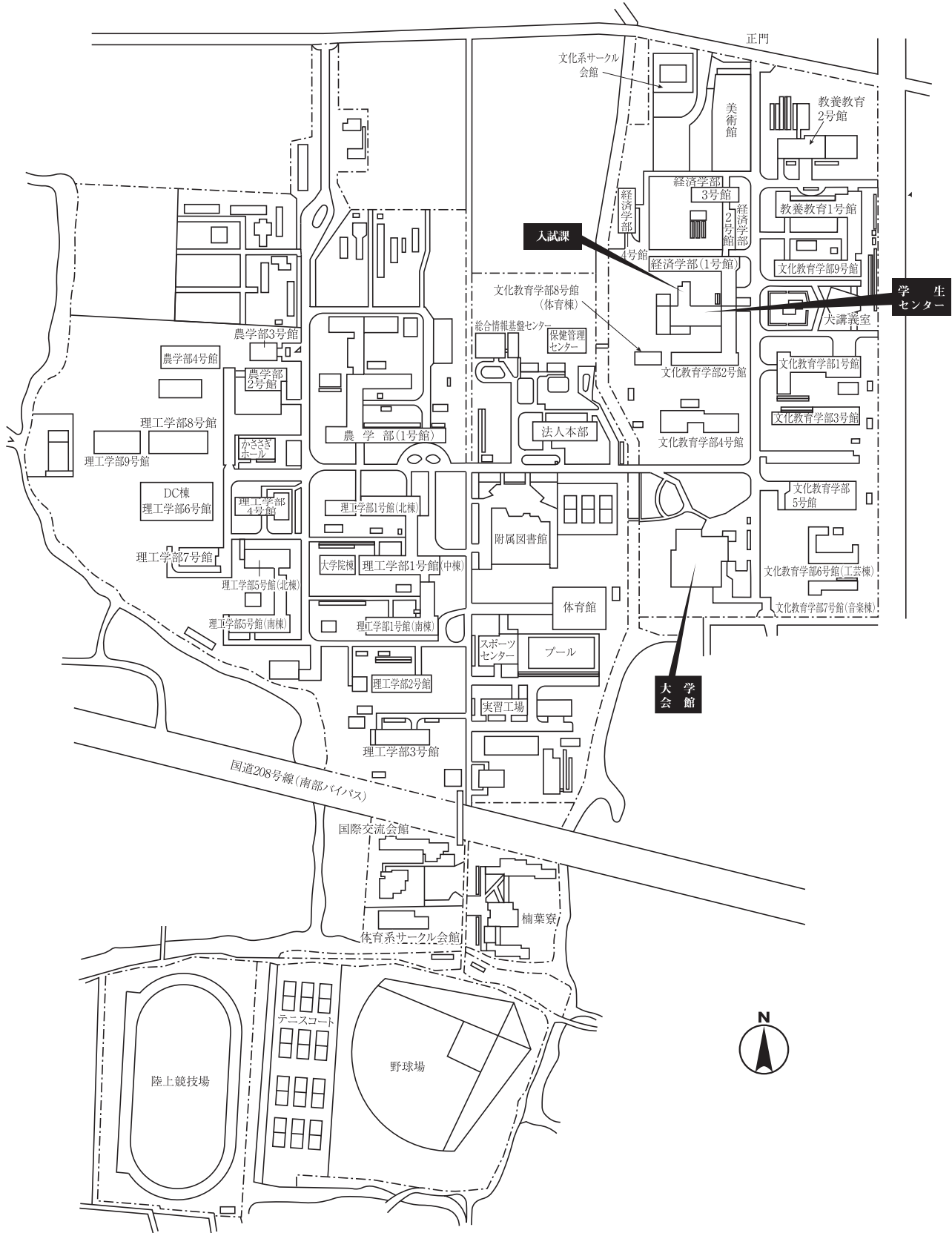
（個人情報の取扱いについて）

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律の施行に伴い、入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、入学者選抜に係る業務（統計処理などの付随する業務を含む。）以外に、教育目的等（入学科・授業料免除、（入学科徴収猶予）及び奨学金等を含む。）に利用します。

※本学が取得した個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供する事はありません。

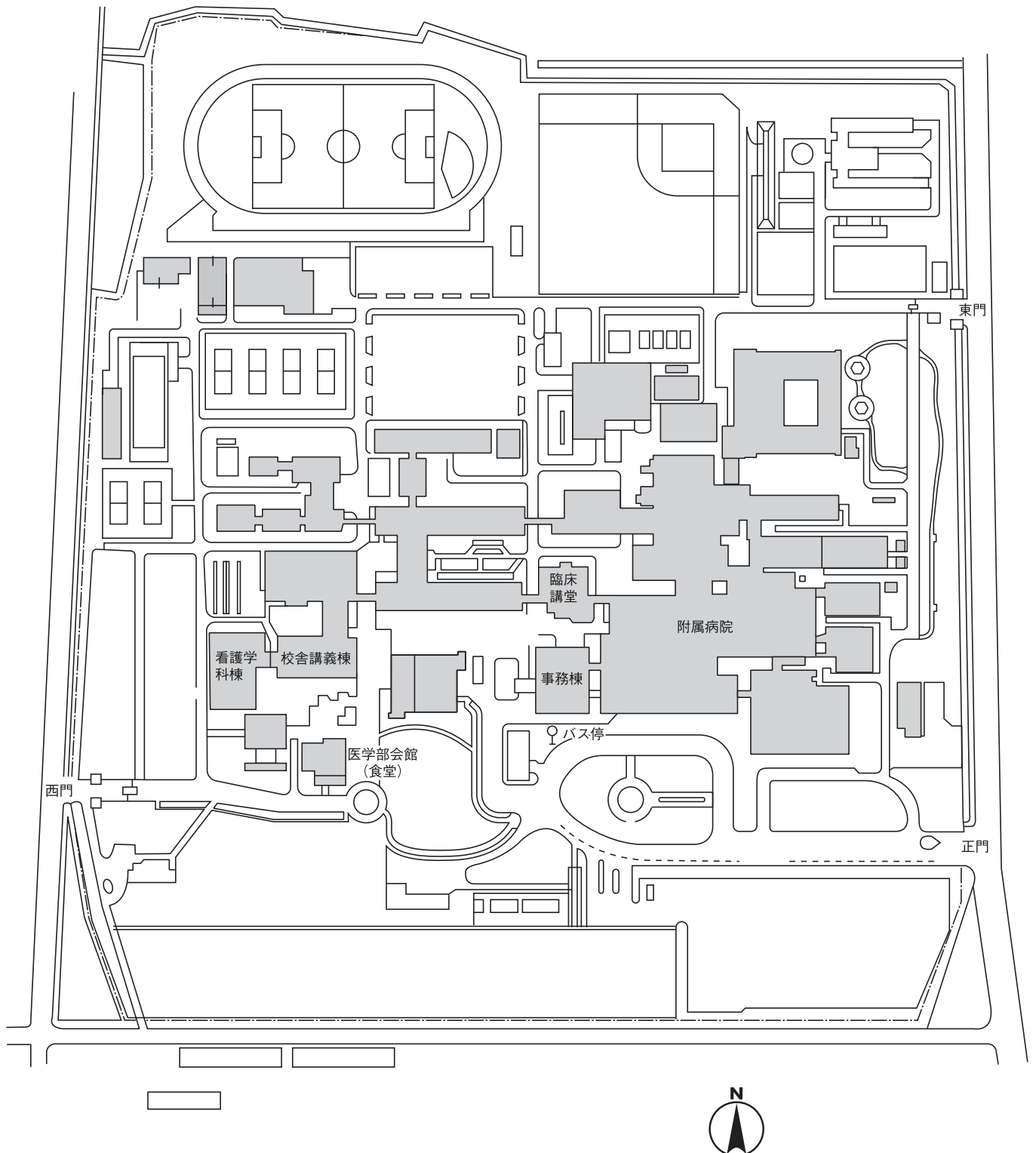
V 共通事項「佐賀大学配置図及び佐賀大学への交通案内」

佐賀大学（本庄キャンパス）配置図 [文化教育学部，経済学部，理工学部，農学部]

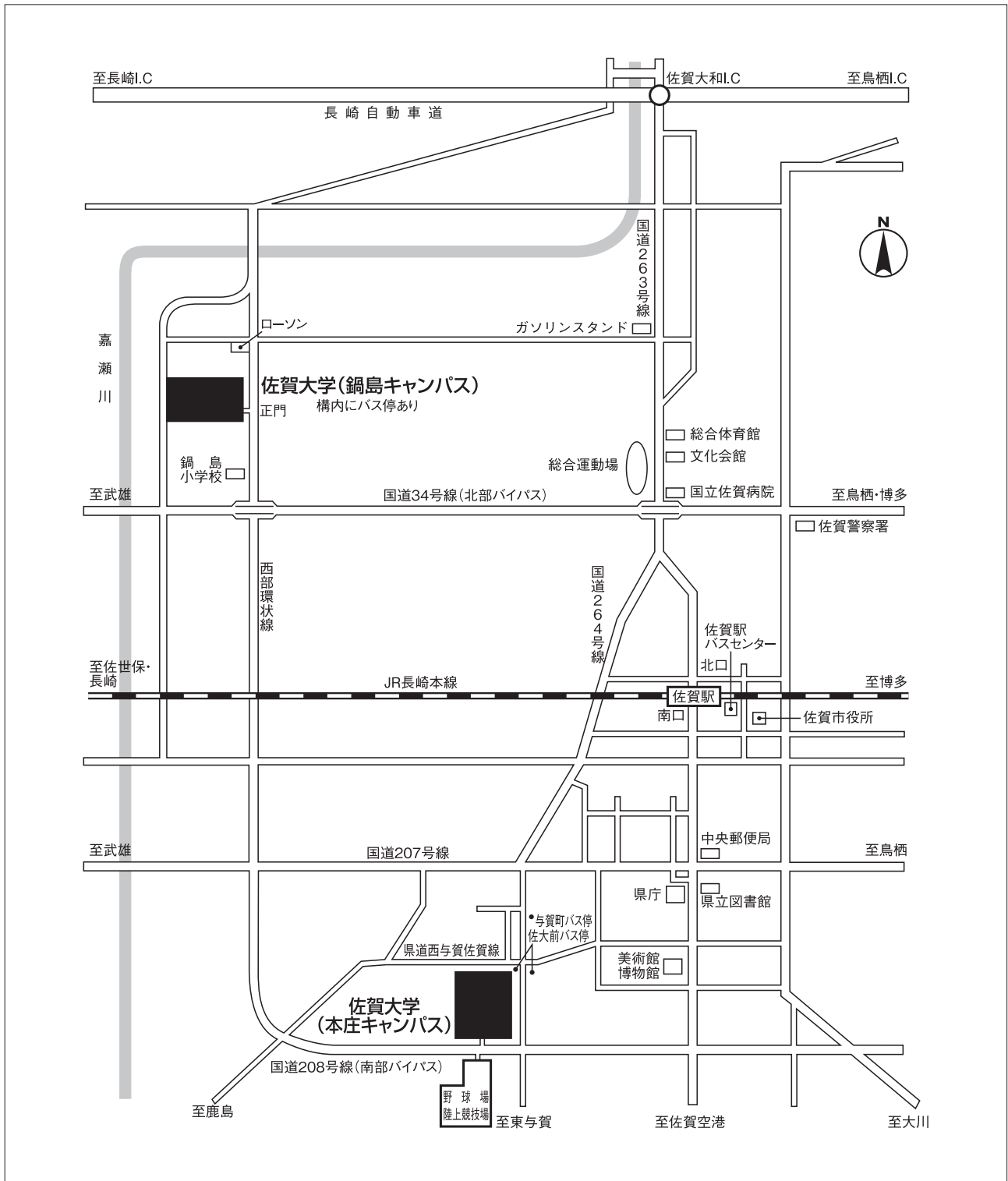


佐賀大学（鍋島キャンパス）配置図

[医学部]



佐賀市内略図



佐賀大学（本庄キャンパス）への交通機関案内

- (1) 佐賀駅バスセンター4番のりばから市営バス佐賀大学・西与賀線・11番, 佐賀大学・東与賀線・12番, 佐賀女子短大・高校線・63番で約15分, 「佐大前」下車
- (2) 佐賀駅からタクシーで約10分

佐賀大学（鍋島キャンパス）への交通機関案内

- (1) 佐賀駅バスセンター2番のりばから市営バス佐賀大学病院線（神野公園, 鍋島小学校経由・50番）で約25分, 終点「佐賀大学病院」下車
- (2) 佐賀駅からタクシーで約20分



本学の情報を携帯電話で見ることができます。
簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。

携帯用 URL:<http://daigakujc.jp/saga-u/>